

平成 25 年 度

業 務 年 報

大分県農林水産研究指導センター

平成25年度 業務年報

目 次

I	大分県農林水産研究指導センターの概要	1
1	農林水産研究指導センターの組織	1
2	試験研究課題の重点化と評価の徹底	2
3	情報発信機能の強化	5
4	試験研究機関の連携推進	5
5	研究員の資質向上	6
6	農林水産関係研究成果発表会	9
7	知的財産権の取得状況	9
8	大学との連携	10
9	受賞、学位取得の状況	10
10	主要な行事・会議等	10
11	各所属の業務・試験研究	11
12	予算概要	12
II	研究部・グループの概要	13
1	農業研究部	13
2	水田農業グループ	26
3	果樹グループ	30
4	花きグループ	35
5	畜産研究部	40
6	林業研究部	48
7	きのこグループ	53
8	水産研究部	60

I 大分県農林水産研究指導センターの概要

1. 農林水産研究指導センターの組織

平成17年4月に、農業、畜産、林業、水産の各試験研究機関を統合し、「農林水産研究センター」を設置した。その後の農林水産業を取り巻く環境や情勢の変化を踏まえ、「産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業」を実現するため、現場ニーズに応えた研究、研究のスピード化、成果の迅速な普及をめざして、研究指導体制を強化し、平成22年4月に「農林水産研究指導センター」に名称を変更した。また、環境対策をはじめ分野を超えた研究課題に対し、連携強化を図るため、農業・畜産・林業・水産の4研究部に再編するとともに、効率的・効果的な研究開発を行うため、チーム制を導入した。さらに、センター本部を豊後大野市に移し、全体を統括するセンター長と総務予算担当、研究企画担当を配置した。

平成23年4月に宇佐市から農業研究部の土壌・環境チームと病害虫チームを、6月にはイチゴチームを豊後大野市に移転した。また、平成25年4月より、農業研究部の「ネギ類チーム」を、「ネギ・イモ類チーム」に、畜産研究部の「豊後牛改良チーム」を、「肉用牛改良肥育チーム」に、「肉用牛・酪農チーム」を、「肉用牛繁殖・酪農チーム」に名称変更した。さらに、畜産研究部の家畜伝染病防疫体制強化を図るため、新たに種雄牛舎を建設し、「種雄牛チーム」を新設した。

今後も引き続き、研究員自らが普及指導員等と一緒に生産現場に赴き、開発した技術を生産者へ指導、技術実証を行うなど、普及指導体制の強化に取り組むこととしている。

なお、本部の主な業務は、試験研究機関の予算の総合調整、研究課題の決定・進行管理、共同研究調整、知的財産取得・活用、課題評価・成果公表、研究員の資質向上、産学官交流・連携促進である。

組 織

農林水産研究指導センター本部

(総務予算担当、研究企画担当)

(本部：豊後大野市)

農 業 研 究 部

(管理担当、企画指導担当、土壌・環境チーム、病害虫チーム、イチゴチーム、ネギ・イモ類チーム、トマト・ピーマンチーム、茶業チーム)

水田農業グループ

(管理担当、企画指導担当、作物品種チーム、作物栽培チーム)

果樹グループ

(管理担当、企画指導担当、温州ミカンチーム、カボス・中晩柑チーム、ナシ・ブドウチーム)

花きグループ

(管理担当、企画指導担当、花きチーム)

畜 産 研 究 部

(管理担当、企画指導担当、種雄牛チーム、肉用牛改良肥育チーム、肉用牛繁殖・酪農チーム、飼料・環境チーム、豚・鶏チーム)

林 業 研 究 部

(管理担当、企画指導担当、森林チーム、木材チーム)

きのこグループ

(企画指導担当、きのこチーム)

水 産 研 究 部

(管理担当、企画指導担当、栽培資源チーム、養殖環境チーム)

浅海・内水面グループ

(管理担当、浅海チーム、内水面チーム)

農林水産研究指導センター各場所別職員配置表

平成25年4月1日現在

機関	事務吏員	技術吏員					技労職員 事務補佐	合計
		研究	行政	普及	海事	計		
農林水産研究指導センター本部	3		6			6		9
農業研究部	5	35	1	4		40	7	52
水田農業グループ	3	9	1	1		11	6	20
果樹グループ	1	14	1	2		17	7	25
花きグループ	1	7	1	1		9	2	12
畜産研究部	4	22	2	3		27	26	57
林業研究部	2	13	1	1		15	3	20
きのこグループ		6	1	2		9	1	10
水産研究部	4	16	1		7	24	1	29
浅海・内水面グループ	1	10	1			11	2	14
合 計	24	132	16	14	7	169	55	248

2. 試験研究課題の重点化と評価の徹底

現場ニーズに即した試験研究を効率的に実施するため、研究課題数を概ね100課題に厳選し、研究のスピード化を図るため、研究期間を原則3年間とした。

研究課題の設定や進行管理に当たっては、内部・外部評価を厳格に行い、評価結果や進捗状況を公表した。

(1) 評価の種類別対象課題

1) 事前評価

開発しようとする技術の内容や手法を精査し、予算要求を行う事前の段階において新規候補課題のすべてについて、県民のニーズや政策的なニーズ、目標達成の可能性など全ての観点から評価を得て、課題実施の適否について判断した。

2) 事後評価

試験研究結果について検証し、現地移転の促進や次期試験研究計画の策定等に活かすため、試験研究終了の翌年度に研究目標等に対する達成状況について評価を得た。

(2) 各研究部内新規試験研究課題検討会（外部評価委員会専門部会：5月31日～6月21日）

現場ニーズにあった試験研究計画とするとともに、試験研究結果について検証し、現地移転を促進した。開催は各研究部、グループ単位で行い、研究員、生産原課の担当職員、普及指導員、生産者代表等に出席を求め、研究実施の必要性、方法の適否、成果とその普及手法等について検討した。

また、本検討会に専門分野からの技術的アドバイスを受けるため学識経験者、生産者、消費流通関係者等で構成する外部評価委員会専門部会員の出席を求め、新規研究課題に関して「技術的達成の可能性」について、「目標設定の妥当性」、「目標達成のための手法」の観点から意見をもらった。

平成25年度農林水産研究指導センター外部評価委員会専門部会

委員会 開催日	部門	外部評価専門部会委員		
		所 属 名	職 名	氏 名
6月12日	野菜	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部 農業環境科学	名誉教授	大久保 敬
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	暖地野菜花き 研究調整監	坂田 好輝
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域 イチゴ栽培研究グループ	上席研究員	沖村 誠
6月10日	茶業	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所 枕崎茶業研究拠点	主任研究員	萬屋 宏
6月17日	病害虫	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 病害虫研究グループ	上席研究員 (プロジェクトリーダー)	平八重 一之
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 病害虫研究グループ	上席研究員	岩堀 英晶
6月13日	土壌環境	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域	上席研究員	草場 敬
		国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部 植物生産科学	教 授	和田 信一郎
6月11日	水田農業	三和酒類株式会社	専務取締役	下田 雅彦
		国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部 農業生産生態学	教 授	望月 俊宏
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域	上席研究員	住吉 正
6月5日	果樹	国立大学法人 鹿児島大学 農学部 生物生産学科 園芸生産学講座	農学部長 教 授	富永 茂人
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 カンキツ研究口之津拠点	カンキツ調整監	塩谷 浩
		大分県果樹生産者協議会 (大分県柑橘研究会)	会 長 (会 長)	川野 英信
5月31日	花き	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域	主任研究員	今村 仁
		東海大学 農学部 応用植物科学科 蔬菜花卉園芸学研究室	教 授	田中 孝幸
		別府市公園緑地課 別府市南立石緑化植物園 みどりの相談所	相 談 員	後藤 哲
6月5日	畜産	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 動物・海洋生物資源学講座 家畜生産生態学分野	准 教 授	後藤 貴文
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	畜産草地 研究領域長	梶 雄次
		公益社団法人 大分県畜産協会	専 務 理 事	佐藤 信行
6月17日	林業	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部 サステイナブル資源科学講座	准 教 授	藤本 登留
		独立行政法人 森林総合研究所 九州支所 森林生態系研究グループ	主任研究員	野宮 治人
5月31日	きのこ	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部 森林環境科学講座	教 授	大賀 祥治
		独立行政法人 森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研究グループ	主任研究員	宮崎 和弘
6月21日	水産	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 動物・海洋生物資源学講座	教 授	松山 倫也
		独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部	部 長	北村 章二
		独立行政法人 水産総合研究センター 増養殖研究所(上浦庁舎) 繁殖技術部	部 長	岩本 明雄

(3) 試験研究推進本部会議並びに試験研究企画評価会議(内部評価)

(農業・畜産部門：7月8日、林業・水産部門：7月9日)

農林水産部長、審議監、県庁生産原課の課室長、農業大学校長並びに農林水産研究指導センター長で構成する試験研究推進本部会議と総務部・企画振興部・生活環境部の総務企画監、商工労働部の産業企画監、産業科学技術センター企画連携担当総括並びに農林水産部構造改革企画監、流通企画監で構成する試験研究企画評価会議を開催し、事前、事後評価対象研究課題について評価を受けた。

(4) 外部評価委員会(外部評価)：8月22日

経済界や大学の学識経験者、流通関係者や生産者代表をもって構成する外部評価委員により、「研究課題の必要性」、「研究課題の社会的・経済的効果」及び「県が行う必要性」について評価を受けた。

平成25年度 大分県農林水産部試験研究外部評価委員

委員氏名	役職等	選 定 理 由
三浦 宏樹	(株)日本政策投資銀行 大分事務所長	前任所長が、大分県長期総合計画策定県民会議委員(産業振興部会)を務め、地域経営や地域づくりに関する豊富な情報を踏まえた評価が期待できる。
本谷 るり	大分大学 経済学部 准教授(経営戦略論)	大分県新長期総合計画策定県民会議委員(産業振興部会)、大分県行財政改革推進委員会委員、大分県企業局経営評価委員会委員、大分県総合評価落札方式審査委員会委員 一次産業の経営戦略的な観点から研究課題の妥当性について評価を期待できる。
長尾 喜久男	京都青果合同(株) 執行役員部長	大分県マーケティングアドバイザー。 大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
立石 弘司	イオン九州(株) 産地開発部長	大分県マーケティングアドバイザー。 大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
藤澤 政則	大分一村一品(株) 代表取締役社長	県内におけるマーケティングに携わる最前線の立場から技術開発の必要性等について評価が期待できる。
大窪 勉	小ネギ生産者	大分”味一ねぎ”生産部会副部会長、 葱屋おおくぼ(有) 代表取締役
近藤 和義	肉用牛経営者	県議、大分県畜産協会会長、おおいた森林組合長、 元大分県指導農業士会会長
田島 信太郎	林業経営者	田島山業(株) 代表取締役
渡邊 英敏	小型底曳漁業者	大分県漁業士連絡協議会 底曳部会 副部会長、 元大分県漁業協同組合宇佐支店運営委員、 元大分県漁業協同組合青年部長

(5) 平成26年度研究課題の決定

内部評価で総合得点60点以上の評価を得た新規候補課題については、次の外部評価に進み、60点未満のものについてはこの時点で外部評価対象課題から除外する。今回内部評価を受けた課題数は24課題で、60点未満のものはなく、全課題が外部評価対象課題となった。

外部評価発表課題は原則、新規課題を対象とし、新規課題の無い研究部においては継続新規課題を対象とした。また、新規課題の多い研究部については、研究としてアピールの必要がある課題を対象とした。外部評価で総合60点以上の評価を得た課題については、平成26年度予算要求課題に決定し、60点未満のものについては内部評価会議の結果を踏まえて、最終的にセンター長が研究課題として採択の可否を判断する。今回外部評価を受けた課題数は12課題で、すべて総合得点60点以上であった。

26年度の新規候補課題数は24課題であり、全課題を平成26年度予算要求課題として採択した。

3. 情報発信機能の強化

研究成果を「研究Now」と題してホームページに掲載し、研究内容を分かりやすく紹介した。

研究Nowの公表実績

vol.	掲載年月日	タイトル
16	H25.5.9	漁場をめぐる争いも、今はデータで話し合い！！
17	H25.6.3	高糖度カンショ「甘太くん」のブランド化に向けて
18	H25.8.5	寿恵福の後継種雄牛「寿恵高福(すえたかふく)」誕生！
19	H25.9.2	単収10t！理想的なハウスミカンの仕立て法は？
20	H25.9.27	大きく広がるお茶の産地！発生する病害虫には技術で勝負。
21	H25.11.12	量販需要に応じた輪ぎく年4作生産方式の実証
22	H25.11.25	有機栽培の推進のため水稻栽培技術の事例集を作成！
23	H26.2.18	肉量と肉質ともに優れた全国トップクラスの寿恵福後継種雄牛「平福安(ひらふくやす)」誕生！
24	H26.3.11	豊前海のアサリの復活をめざして ～アサリ稚貝の移植方法の開発～
25	H26.3.17	夏期のニラの鮮度保持 ポイントは収穫直後の冷蔵と密封包装！
26	H26.3.24	おおいた発！どんぐりの森から生まれたクヌギ家具

4. 試験研究機関の連携推進

県内の試験研究機関が総合的かつ有機的な連携を図るため、衛生環境研究センターと産業科学技術センターとで大分県試験研究機関連携会議を平成22年度に設置し、研究員の交流、意見・情報交換の推進、試験研究機器の相互有効活用の推進、研究の連携推進等を行った。

5. 研究員の資質向上

研究課題解決のための高度な技術の習得及び資質向上のため研究員の研修を実施した。

(1) 短期派遣研修

所 属	職・氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
農業研究部	主任研究員 祖田 嘉教	日本植物病理学会	茨城県	H25. 8. 5～9 (5日間)	植物の病害の診断方法に関する研修
	主幹研究員 佐藤 善人	岐阜大学ほか	岐阜県	H25. 9.30～10. 3 (4日間)	Pythium属菌の種同定とモニタリング 手法の技術取得
畜産研究部	主幹研究員 阿南 加治男	独立行政法人 家畜改良センター	福島県	H26. 2. 3～7 (5日間)	鶏血液からのIGF1遺伝子の遺伝子型 解析技術の習得
	主任研究員 秋好 禎一	独立行政法人 農業・食品産業技術 総合研究機構 畜産草地研究所	茨城県	H25.10. 2～4 (3日間)	官能評価分析技術の習得
水産研究部	研究員 吉岡 佐織	公益社団法人 日本水産資源保護協会	東京都	H25. 8.26～9. 6 (うち10日間)	魚類防疫士養成コース2年目
	研究員 堀切 保志	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所	石川県	H25.11.13～15 (3日間)	ワムシ培養に関する技術の習得
	研究員 野田 誠	独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所	広島県	H26. 2.20～21 (2日間)	養殖漁場における有機物の堆積量測 定技術の習得

(2) 長期派遣研修

所 属	職・氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
農業研究部 花きグループ	研究員 米田 恵美	独立行政法人 農業環境技術研究所 生物生態機能研究領域	茨城県	H25.10. 1～12.27 (3ヶ月)	キク白さび病の薬剤感受性検定法 に係わる技術の習得
農業研究部 水田農業グループ	主任研究員 二宮 淑恵	独立行政法人 農業・食品産業技術 総合研究機構	茨城県	H26. 1.10～3. 7 (57日間)	水稲における品種解析手法の習得

(3) 新規採用研究員現場体験研修

所 属	職・氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
農業研究部	研究員 金丸 幸代	ネギ生産者 トマト生産者 ニラ生産者	豊後大野市 竹田市 大分市	H25. 7月～11月 (延べ 15日間)	定植、液肥作成、葉掻き、収穫、選別、ハウス管理ほか
	研究員 福本 律子	ネギ生産者 トマト生産者 ニラ生産者	豊後大野市 竹田市 大分市	H25. 7月～11月 (延べ 15日間)	定植、液肥作成、葉掻き、収穫、選別、ハウス管理ほか
	研究員 濱田 翔子	ニラ生産者	大分市	H25. 7月～H26. 1月 (延べ 15日間)	ハウス組立作業、定植、出荷作業
農業研究部 水田農業グループ	研究員 安道 結香	農事組合法人 橋津宮農組合 「よりもの郷」	宇佐市	H25. 5月～H26. 1月 (延べ 15日間)	水稻、タマネギ及び黒豆の栽培、収穫、出荷作業
農業研究部 果樹グループ	研究員 若杉 泰嗣	ハウスミカン生産者	津久見市	H25. 8月～12月 (延べ 15日間)	剪定、芽かき、摘果、選果、ハウス管理、獣害対策ほか
畜産研究部	研究員 三輪 友樹	(株)大分県畜産公社 四季彩事業部	九重町	H26. 2.17～ 3. 7 (延べ 15日間)	肥育牛の飼養管理
林業研究部	研究員 井上 千種	(有)キョタキナーセリー	日田市	H25. 6月～H26. 1月 (延べ 15日間)	挿木、鉢上げ、芽摘み、間引き、播種ほか
水産研究部	研究員 安部 洋平	日出水産 佐々木水産 河内水産	日出町 臼杵市 佐伯市	H25.10月～H26. 3月 (延べ 15日間)	船曳網、旋網の乗船体験、ヒラメ養殖の飼育管理体験
水産研究部 浅海・内水面グループ	研究員 崎山 和昭	海苔養殖業者	中津市	H25.10月～H26. 1月 (延べ 15日間)	刈種付け、展開、冷凍網入出庫、収穫作業

(4) 若手研究員研修

若手研究員に対して、本県の農林水産業を取り巻く情勢、他研究部・グループでの研究内容及び研究に対する心構え等について理解を深めるとともに、先輩研究員からの講演をとおり、若手研究員の意欲を高め、幅広い観点から試験研究遂行能力の向上を図るため研修を行った。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
H25. 9.11	水田農業グループ	概ね35歳以下の若手研究員 23名	水田農業グループ及び果樹グループ(ナシ・ブドウチーム)の施設見学(講演) 「センター改革の検証及び研究員に望むもの」 農林水産研究指導センター 金塚 秀夫 センター長 ～先輩研究員からのメッセージ～ ・「焼酎用原料大麦品種の研究開発」 水田農業グループ 作物品種チーム 白石真喜夫 チームリーダー ・「ブドウ産地再興をかけた特色あるワイン専用品種の開発」 果樹グループ ナシ・ブドウチーム 釘宮伸明 主任研究員

(5) 中堅研究員研修

中堅研究員を対象に、民間企業や他の研究機関の方との意見交換をとおり、視野を広げ、試験研究企画及び自己開発能力の向上を目的に研修を行った。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
H26. 2.28	大分県産業科学技術センター	概ね35歳以下の若手研究員 21名	産業科学技術センターの研究施設見学(講演) 「もうかる農林水産業支援のために」 株式会社 みらい蔵(ぞう) 代表取締役 山村恵美子 氏 「産業科学技術センターにおける県内企業支援について」 産業科学技術センター 企画連携担当 大塚 裕俊 主幹研究員

(6) チームリーダー研修

各研究部、グループのチームリーダー及び企画指導担当（総括）を対象に研究の企画・立案能力の向上を図り、リーダーとしての自覚を高めることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H25. 6. 6	大分醤油協業組合、大分みそ協業組合	チームリーダー及び企画指導担当総括 25名	大分醤油協業組合研究施設視察 (講演) ・「フンドーキン醤油株式会社における研究・開発の取り組みと人材育成について」 フンドーキン醤油株式会社 取締役 品質保証部長 加藤 正 氏 食品科学研究所長 ・「大豆煮汁の乳用牛飼料への利用方法」 畜産研究部 肉用牛繁殖・酪農チーム 藤田 達男 主幹研究員

(7) マーケティング研修

国内外の農業の動向など幅広い情報とマーケット動向を的確に把握し、農林水産業をめぐる環境等の変化及び市場ニーズをしっかりとつかみ、将来を見据えた新たな発想を生み出す研究員の育成を図ることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H26. 3. 4	花きグループ研修室	研究員等 26名	(講演) 「マーケティングを見据えた機能性農林水産物の研究開発について」 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター作物開発・利用研究領域 主任研究員 後藤 一寿 氏 (情報提供および意見交換) 「The・おおいブランドの機能性成分について」

(8) プレゼンテーション研修

説得力あるプレゼンテーション技術や論理的なシナリオ構築、洗練された話し方を習得することを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H25. 5.27～28	県庁新館 OAプラザ	研究員等 15名	テーマ「説得力のあるプレゼンテーションの技術」 講師 東北大学大学院 生命科学研究所 准教授 酒井 聡樹 氏

(9) 数理統計研修

試験研究を行っていく上で、基礎的かつ重要な数理統計について、農林水産試験研究における基礎的な手法の習得とあわせて、現場において直面すると思われる数理統計処理の演習を行うため研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H25.11.25～27	県庁新館 OAプラザ	研究員等 15名	「統計学概論」 講師 独立行政法人 農業環境技術研究所 生態系計測研究領域 上席研究員 三中 信宏 氏

(10) 知的財産研修

知的財産は新たな付加価値を創出し、ブランド化や産地間競争での優位性を高めるとともに、共同研究や競争的研究資金を獲得する上で有効なものである。

平成25年度は、工業振興課が主催する各種研修に研究員等を派遣した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H25. 9月～ H26. 2月	ソフトパークほか	研究員等 延べ24名	工業振興課主催の「知財塾」(全5回)および「知財セミナー」を活用

6. 農林水産関係研究成果発表会

(1) 農林水産研究指導センター研究紹介

試験研究の成果を広く県民の方に情報提供するために実施した。

- ・開催日時：平成25年12月10日（火） 13:00～16:00
- ・開催場所：コンパルホール 多目的ホール
- ・対象：一般県民、消費者団体、生協関係者、生産者団体
- ・参加者数：約190名（副知事出席）

研究紹介 発表時間:1課題 15分

No	所属	職・氏名	発表課題
1	農業研究部 水田農業グループ	主任研究員 二宮 淑恵	暑さに強い大分の新ブランド米「つや姫」
2	農業研究部 果樹グループ	主幹研究員 信貴 竜人	新食感カンキツ「ゼリーオレンジ・サンセレブ(大分果研4号)」の育成
3	畜産研究部	主幹研究員 安高 康幸	オレイン酸が豊富で濃厚な味わいが堪能できる豊後牛肉の生産に向けて
4	林業研究部 きのことグループ	主幹研究員 有馬 忍	世界が認めた大分の乾椎茸 — 世界農業遺産認定と栽培技術研究 —
5	水産研究部 浅海・内水面グループ	主任研究員 内海 訓弘	泥を排除した水槽で泥鰌から鱈へ ～老舗が絶賛する大分ドジョウ～

・試食及び展示

- 大分茶（3種）の試飲
- 新ブランド米「つや姫」おにぎりの試食
- ゼリーオレンジ・サンセレブ（大分果研4号）の試食
- オレイン酸55%以上の豊後牛の試食
- 屋内無泥養殖ドジョウの唐揚げ試食
- 木材の特性を活かした木製ベンチの展示
- オリジナルトルコギキョウ「チェリービー」シリーズの展示
- 乾椎茸のサンプル及びハボタン切り花の配布

7. 知的財産権の取得状況

(1) 特許登録

平成25年度中に登録となった特許は下表のとおりであった。

平成25年度特許登録等一覧表

発明・考案の名称	関係所属	大分県の 権利持分 (%)	出願番号 (出願年月日)	特許番号 (登録日)
ウシ脂肪交雑形成に関わる一塩基多型およびその利用	畜産研究部	20	特願2007-235628 (H19.9.11)	特許第5281775号 (H25.5.31)
		20	特願2009-038007 (H21.2.20)	特許第5281920号 (H25.5.31)
受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法		50	特願2011-097659 (H23.4.25)	特許第5422848号 (H25.12.6)

(2) 種苗登録

平成25年度中に登録された品種等はなかった。

8. 大学との連携

県内には農林水産系の4年制大学がなく、研究交流が容易に進み難い状況にあるため、平成19年1月29日に九州大学大学院農学研究院と共同研究や人材養成について連携する基本協定を締結し、共同研究等で幅の広い研究を行うための連携を進めた。なお平成24年1月28日を以て5年間の有効期間が満了したが5年間の協定の延長を行っている。

平成25年度は、12課題（検討中のものも含む）について共同研究・連携に向けた取り組みを行った。

9. 受賞、学位取得の状況

平成25年度は2名の研究員が研究功績賞を受賞した。

また1名の研究員は学位（博士）を取得した。

平成26年3月末時点での当センター職員の学位（博士）取得者は10名である。

(1) 受賞者一覧

受賞者名	所属	受賞名	表彰授与主体	受賞通知日 (表彰式典日)	受賞の内容
佐藤 如 <small>ひとし</small>	農林水産研究指導センター (本部)*	平成25年度 研究功労者表彰	全国農業関係 試験研究場所長会	H25年1月11日 (H25年6月25日)	イチゴの高設栽培技術確立
藤田 達男	畜産研究部	平成25年度農業 技術功労者表彰	農林水産省 農林水産技術会議、 公益社団法人 農林水産・食品産 業技術振興協会	H25年11月22日 (H25年12月20日)	肉用牛の遺伝性疾患等に関する ゲノム研究と育種改良への応用

*受賞通知時の所属は農業研究部

(2) 学位取得者一覧

学位取得者	所属	職名	学位授与大学	授与日	学位	研究課題名
岡崎 真一郎	農業研究部	主任研究員	九州大学	H25.9.24	博士 (農学)	ピーマンを加害するトマト黄化えそ病ウイルス(TSWV)媒介者ミカンキイロアザミウマの総合防除に関する研究

【農林水産部職員(H26年3月末時点)の博士号取得者数 16名】

うち農林水産研究指導センター所属:10名(内訳:農研部(1)、水田(1)、畜産(3)、林業(1)、きのこ(2)、水産(2))

10. 主要な行事・会議等

(1) 主な行事・会議等一覧表

月 日	行事名等	場 所
H25年 7月 8日	農林水産部試験研究推進本部・企画評価合同会議(農業・畜産)	水産会館
7月 9日	農林水産部試験研究推進本部・企画評価合同会議(林業・水産)	水産会館
8月22日	農林水産部試験研究外部評価委員会	大分文化会館 第1小ホール
10月19~20日	農林水産祭(水産部門)への水産研究展示	亀川漁港
10月26~27日	農林水産祭(農林業部門)への農業・畜産・林業研究展示	別府公園
12月10日	農林水産研究指導センター研究紹介	コンパルホール 多目的ホール

(2) 所属長会議及び企画調整会議の開催

各試験研究機関との連絡調整を図るため、本部と各研究部長・グループ長とで構成する所属長会議及び各研究部、グループの企画指導担当で構成する企画調整会議を開催した。

なお、所属長会議は4回、企画調整会議は4回開催した。

1.1. 各所属の業務・試験研究

所属名	主な業務・研究内容
農林水産研究指導センター (本部)	<ul style="list-style-type: none"> ○研究課題の決定調整・進行管理 ○共同研究の調整・知的財産取得・活用 ○課題評価・成果公表 ○研究員の資質向上 ○産学官交流・連携促進
農業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌管理・施肥改善技術、有機栽培技術 ○病虫害発生予察・防除技術、環境保全型農業技術 ○イチゴの品種育成・選定、栽培技術、バイオ技術 ○ネギ・ニラ等の品種選定、栽培技術 ○トマト・ピーマン等の品種選定、栽培技術 ○茶の品種選定、栽培・加工技術
水田農業グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○稲・麦・大豆の品種の育成・選定 ○稲・麦・大豆の栽培技術、優良種子生産
果樹グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術 ○カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○ナシ・ブドウ等の育種、優良系統の選抜、栽培技術
花きグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○花き類の育種、優良系統の選抜、栽培技術
畜産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種雄牛の造成、改良増殖 ○肉用牛・乳用牛の飼養技術、繁殖技術 ○飼料生産技術、放牧技術、家畜環境対策 ○豚の育種、飼養管理技術 ○家禽の育種、飼養管理技術
林業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○森林施業技術、スギ等育種、病虫獣害対策技術 ○木材乾燥技術、木材性能評価、製品開発、竹材加工技術
きのこグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○きのこの育種、栽培技術、病虫害防除技術 ○きのこ類の生理、分類、同定、経営に関する研究
水産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種苗生産と育種、放流効果技術、水産資源管理、漁場造成技術 ○養殖技術の開発、魚介類の疾病対策、漁場環境保全、水産物の品質向上技術
浅海・内水面グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○別府湾以北の漁場環境保全、海藻類の増養殖技術、魚介類の種苗生産、放流技術及び資源管理 ○淡水魚の増養殖技術、資源管理、環境及び生物の保全、魚病診断・対策技術

12. 予算概要

平成25年度予算概要（当初予算[人件費を除く]）

（単位：千円）

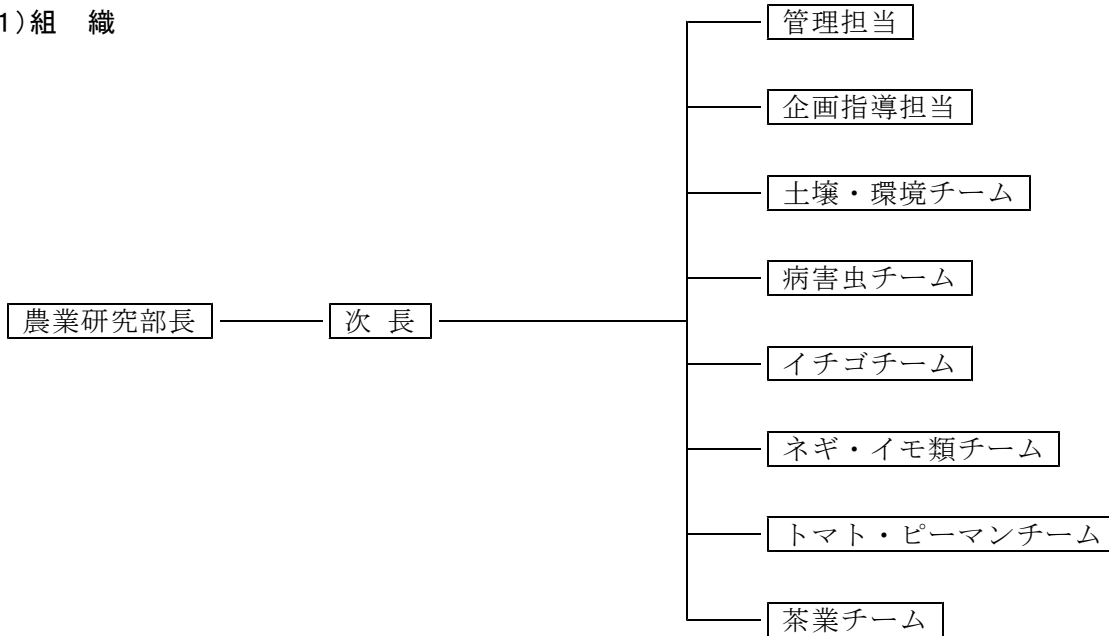
区 分	管理運営費	施設整備費	試験研究費	計
試験研究調整費 （農林水産研究指導センター本部）	2,773		15,707	18,480
農業研究部	60,493	8,740	40,593	109,826
水田農業グループ	23,541	3,400	14,430	41,371
果樹グループ	14,538	7,805	26,520	48,863
花きグループ	20,571	1,229	13,935	35,735
畜産研究部	45,078	8,049	125,219	178,346
林業研究部	16,266	7,487	10,039	33,792
きのこグループ		1,256	14,601	15,857
水産研究部	22,692	8,333	35,121	66,146
浅海・内水面グループ	23,802	1,103	16,199	41,104
合計（農林水産研究指導センター）	229,754	47,402	312,364	589,520

II 各研究部・グループの概要

II-1 農業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部長	長		1					1	
次長	長	1						1	兼務
管理担当	当	5					1	6	
企画指導担当	当		7					7	広域普及指導員 4名
土壌・環境チーム	チ		6		1			7	
病害虫チーム	チ		9					9	
イチゴチーム	チ		6	1	1			8	
ネギ・イモ類チーム	チ		4					4	
トマト・ピーマンチーム	チ		5		1	1		7	
茶業チーム	チ		2	1				3	
計		6	40	2	3	1	1	53	

(3) 業務

- ①農産物の安全安心に関する研究
- ②環境に優しい農業生産技術
- ③病害虫管理技術及び土壌管理技術
- ④植物検疫、病害虫発生予察情報、気象情報等の情報発信
- ⑤イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の品種選定・育種
- ⑥イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の高品質、省力・低コスト栽培技術
- ⑦バイオテクノロジー手法を用いた品種判別技術
- ⑧農産物の安全安心・病害虫管理・各種野菜生産等に関する既開発技術の現地移転ならびに指導者・生産者に対する指導

2. 試験研究課題(1/7)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
県間連携によるイチゴ新品種の育成				
1) 県間連携による品種育成と栽培技術の確立				
(1) 母本特性評価	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
(2) 組合せ能力検定	〃	〃	〃	〃
(3) 選抜	〃	山口県、鳥取県、島根県	〃	〃
2) 育種期間短縮のための交配、選抜方法の確立				
(1) 育種期間短縮のための交配方法の確立	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
(2) 育種期間短縮のための選抜、評価方法の確立	〃	〃	〃	〃
(3) 短縮技術を用いた交配、選抜による有望系統の育成				
ア) 実生系統選抜、二次系統選抜、三次系統選抜	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
イ) 四次選抜	〃	山口県、九州農研セ他	〃	〃
ウ) 育成系統「大分5号」の栽培技術	〃	イチゴ`品種育成支援プロ	〃	〃
エ) 地域適応性試験	〃	イチゴ品種育成支援プロ、各振興局	〃	〃
県育成品種（大麦、カンキツ、イチゴ）のDNA鑑定法の開発				
1) オオムギの品種判別	イチゴチーム	水田G	H24～25	県単
2) カンキツの品種判別	〃	果樹G、農研機構果樹研究所	〃	〃
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
栽培情報モニタリングによるイチゴ最適管理技術				
1) 栽培環境が単収に及ぼす影響				
(1) CO2施用および日中強制換気が生育及び収量に及ぼす影響	イチゴチーム	九州大学、産科技セ	H25～27	県単
(2) CO2施用と液肥濃度が生育及び収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(3) 排液率および灌水方法が生育および収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃

2. 試験研究課題(2/7)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
(4) 元肥による排液ECの違いが生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
2) 生産現場における単収決定要因の分析(現地調査)	〃	〃	〃	〃
3) ITを活用した栽培情報モニタリングシステムの開発支援	〃	〃	〃	〃
安全生産技術に対する研究				
1) 普通作物の病害虫防除対策				
(1) 水稲病害虫防除の効率化、体系化				
ア 水稲・大豆害虫の個別防除効果試験	病害虫チーム		H25～27	委託
2) 野菜類の病害虫防除対策				
(1) 野菜類病害に対する薬剤選定(トマト・ピーマン・ネギ・ニラ)	病害虫チーム	中部振興局	長期	県単一部委託
(2) 野菜類害虫に対する薬剤選定 (ピーマン・小ネギ・ニラ・ナス・イチゴ)	〃		H25～27	〃
水耕養液の長期利用技術の確立				
1) みつばにおける循環型養液栽培モデルの検証				
(1) 養液成分の動態調査および養液管理ソフトの改良	土壌・環境チーム	育葉産業	H24～25	県単
2) 循環型モデルの適合性の現地実証				
(1) 養液管理ソフト適合性検討(現地支援)	土壌・環境チーム	中部振興局	H25	県単
(2) 養液交換の簡易判定基準の有効性検証	〃	中部振興局、育葉産業	〃	〃
小ネギの冬期増収に向けた栽培技術の改善				
1) 栽培基準の見直し				
(1) 播種量の検討	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム	H25～27	県単
(2) 施肥量の検討	〃	〃	〃	〃
(3) 品種の検討	〃	〃	〃	〃
2) 冬期栽培に適した施肥技術の検討				
(1) 施肥方法の検討				
① 基肥と追肥の割合	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム	H25～27	県単
(2) 施用する窒素形態の検討	土壌・環境チーム	ネギ・イモ類チーム	H25～27	県単

2. 試験研究課題(3/7)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
ニラの作型改善のための品質、収量向上技術の確立				
1) 作期の前進化による収量確保				
(1) 定植時期、保温技術の検討	ネギ・イモ類チーム		H25～27	県単
2) 品質低下防止技術				
(1) 遮光資材の利用技術の検討	ネギ・イモ類チーム	中部振興局	H25～27	県単
根深ネギの大規模経営体のための周年安定生産技術の確立				
1) 平坦地での秋冬ネギの安定生産技術の確立				
(1) セル大苗利用による秋冬ネギ安定生産技術 現地試験	ネギ・イモ類チーム	北部振興局	H24～26	県単
(2) セル大苗利用による秋冬ネギ安定生産技術 場内試験				
①播種粒数及び育苗日数が生育に及ぼす影響	ネギ・イモ類チーム		H24～26	県単
②品種が生育、収量に及ぼす影響	〃		〃	〃
2) トンネル被覆栽培での5月収穫ネギの追肥・かん水技術の確立				
(1) トンネル被覆開始時期が生育、収量に及ぼす影響	ネギ・イモ類チーム	豊肥振興局	H24～25	県単
(2) かん水が生育、収量、抽だい率に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(3) 被覆開始前の緩効性肥料の施肥効果の検討 現地試験	〃	〃	〃	〃
大分ブランド高品質カンショ「甘太くん」の安定生産技術の確立				
1) 栽培管理技術				
(1) 土壌理化学改良技術の確立	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム、中部局、豊肥局、九沖農研センター	H24～26	県単
2) 貯蔵管理技術				
(1) 糖度安定向上技術の確立 ①低温処理	ネギ・イモ類チーム	中部局、豊肥局、九沖農研センター	H24～26	県単
(1) 糖度安定向上技術の確立 ②糖度測定法	〃	中部局、豊肥局、九沖農研センター、(株)クボタ	H24～26	〃
(2) 腐敗果軽減技術	〃	中部振興局、豊肥振興局	〃	〃
(3) 低温遭遇時間	〃	中部振興局、豊肥振興局、大阪事務所	〃	〃

2. 試験研究課題(4/7)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
イチゴのうどんこ病とクロバネキノコバエ類の防除対策				
1) うどんこ病の予防体系の確立				
(1) 無病苗の選抜法の確立	病害虫チーム		H24～26	県単
(2) 育苗期における高温処理によるうどんこ病の防除効果	〃	各振興局	〃	〃
(3) 有効薬剤の選定	〃		長期	委託
2) クロバネキノコバエ類の防除対策				
(1) 発生実態調査	病害虫チーム	東京大学、各振興局、イチゴチーム	H24～26	県単
(2) 有機質資材調査	〃		〃	〃
(3) 有効薬剤の探索	〃		〃	〃
(4) 防除効果試験	〃		〃	〃
病害虫発生予察事業				
2) 発生予察技術支援対策				
(1) ウイルス保毒虫、薬剤抵抗性害虫の検定	病害虫チーム	各振興局	H23～25	県単、一部国庫
農薬残留特殊調査（マイナー作物への登録拡大）	病害虫チーム	土壌・環境チーム、中部振興局、北部振興局	H25～27	県単、一部国庫
根深ネギに突発的に発生するネダニ類の防除対策				
1) 発生実態調査				
(1) 発生種、発生消長調査、ネギの生育に影響するネダニ類密度	病害虫チーム	各振興局	H24～26	県単、一部委託
(2) ネダニ類発生圃場における軟腐病発生実態調査	〃	〃	〃	〃
3) 防除技術の確立	〃	〃	〃	〃
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
緑茶飲料茶、「おおい茶グリーン」の収量、品質向上技術の確立				
1) 新需要に対応した多収安定生産技術の開発				
(1) 摘採適期予測技術の開発	茶業チーム		H25～27	県単
(2) 主要品種の秋冬番茶加工適正の解明	〃		〃	〃
(3) 有効積算温度と翌一番茶収量に関するデータの蓄積	〃		〃	〃

2. 試験研究課題(5/7)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
2) 「おおい茶」ブランド確立に向けた被覆栽培技術の高度化				
(1) 被覆・摘採適期判断技術	茶業チーム		H25～27	県単
(2) 品種毎の被覆適応性解明	〃		〃	〃
(3) 高品質茶園の要因分析	〃	研究普及課	〃	〃
3) 栄養性適応性試験				
(1) 12群 (2) 13群	茶業チーム	(独) 野茶研	H25～27	県単
温室効果ガス排出量の削減と効率的な低コスト施肥技術の確立	〃	飲料茶メーカー	H25	県単
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
チャの難防除害虫の効率的な防除技術の確立				
1) 難防除害虫に対する発生予測と防除技術の確立				
(1) チャトゲコナジラミの発生予測と防除技術の確立				
① 発生消長調査	茶業チーム	東部振興局	H23～25	県単
② 防除薬剤、防除時期の検討	〃	東部振興局	〃	県単、一部委託
(2) クワシロカイガラムシのふ化予測技術の確立				
② 現地茶園温度データ採取	茶業チーム	東部、北部、中部、豊肥局	H23～25	県単
2) 越冬害虫の密度低減技術の確立				
(1) 秋期防除・せん枝によるチャノホソが越冬密度低減技術	茶業チーム	広域普及指導員	H23～25	県単
3) 薬剤感受性低下に対応した防除技術の確立				
(1) チャノキイロアザミウマに対する各種薬剤の検定	茶業チーム	病害虫チーム	H23～25	県単
(2) チャノミドリヒメヨコバイに対する各種薬剤の検定	〃	〃	〃	〃
高温基調下での気象変化に対応したトマトの安定出荷技術				
1) 生理障害軽減のための気象状況(予測)を考慮した灌水技術				
(1) 生理障害回避のための要因分析(夏秋地帯)(水管理)	トマト・ピーマンチーム		H23～25	県単
(2) 生理障害回避のための要因分析(夏秋地帯)(赤採りトマト)	〃	豊肥振興局、西部振興局	〃	〃
3) 一段密植栽培における出荷平準化技術の確立				
(1) 高温期の着果安定(品種比較)	トマト・ピーマンチーム		H23～25	県単
(2) 高温期の着果安定(専用組成、二段取り)	〃		〃	〃
(3) 高温期の着果安定(病害対策)	〃	病害虫チーム	〃	〃
トマト促成栽培での適正な飽差管理による二酸化炭素施用効果実証試験	〃		H25	〃

2. 試験研究課題(6/7)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立				
1 温暖化に対応した栽培技術の確立				
1) 高温対策技術の開発				
(1) 合理的なかん水方法の確立(摘葉)	トマト・ピーマンチーム		H24～26	県単
(2) 合理的なかん水方法の確立(かん水時間)	〃	土壌・環境チーム	〃	〃
(3) 高温耐性品種の選定	〃		〃	〃
2) 防虫ネット全面展開方法の改良	〃	病害虫チーム	〃	〃
西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立				
2 温暖化等気象変動に対応した夏秋ピーマンの水・肥培管理技術の確立				
1) 気象変動に対応した水管理技術の検討				
(1) 生育ステージに応じた適正な水管理条件の検討	土壌・環境チーム	トマト・ピーマンチーム	H24～26	県単
(2) 各産地における水管理実態調査	〃	トマト・ピーマンチーム、ピーマンPT班	〃	〃
2) 気象変動に対応した肥培管理技術の検討				
(1) スターター肥料と緩効性被覆肥料組み合わせの検討	土壌・環境チーム	トマト・ピーマンチーム	H24～26	県単
(2) 現地実証試験	〃	ピーマンPT班	H24～26	県単
西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立				
3 夏秋ピーマンにおいて近年顕在化したタバコガ類と白絹病に対する防除技術の確立				
1) タバコガ類の防除対策				
(1) タバコガ類種構成調査	病害虫チーム	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、中部、豊肥、西部局、JA大分	H24～26	県単、一部国庫
(2) 越冬実態の解明	〃	広域普及指導班、中部、豊肥、西部局、JA大分	〃	〃
(3) 有効な薬剤の探索	〃	トマト・ピーマンチーム	〃	〃
(4) 防除適期の把握				
①数値に基づいた発生予察手法の確立				
ア) タバコガ有効積算温度とトラップ誘殺数の関係	病害虫チーム	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、中部、豊肥、西部局、JA大分	H24～26	県単、一部国庫

2. 試験研究課題(7/7)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
②総合防除対策の確立				
ア) 防虫ネット展張ハウスでの総合防除対策	病害虫チーム	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、中部、豊肥局、JA大分	H24～26	県単、一部国庫
イ) 新たに発生した薬剤の効かないワタアブラムシ防除対策	〃	中部、豊肥、西部、北部局、中央農研、岡山大学	H24～26	県単
2) 白絹病の防除対策				
(1) 発生生態の解明	病害虫チーム	土壌・環境チーム、中部振興局	H24～26	県単
(2) 防除技術の確立	〃	中部振興局、日本化薬(株)	〃	〃
農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業	土壌・環境チーム	全振興局、家畜衛生飼料室	H25～32	国庫委託
5 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
製鋼スラグを利用した火山灰土壌(黒ボク土)のリン酸利用効率向上技術の開発				
1) リン酸利用効率の検討	土壌・環境チーム		H25～27	県単
2) 環境負荷への影響の検討	〃		〃	〃
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
イチゴのウイルスフリー苗の育成	イチゴチーム	病害虫チーム	長期	県単
カンショの茎頂培養によるウイルスフリー苗とサトイモ優良種苗保存育成	ネギイモ類チーム	イチゴチーム	〃	〃
カンショの品種選定	〃	九州沖縄農業研究センター	〃	〃

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成24年度農業研究部試験研究成績書	H25.5月	382	50
大分県農林水産研究指導センター研究報告(農業研究部編)第4号	H26.3.31	46	150
大分県農林水産研究指導センター研究報告第4号	H26.3.31	45	250
平成25年度植物防疫事業成績書	H26.3.31	71	300

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
小野元治、武政彰、和田志乃、岡崎真一郎	ダイズの子実加害性カメムシ類に対する主要薬剤の防除効果	九州病害虫研究研究会報	59	105
岡崎 真一郎	近年大分県の夏秋ピーマンで多発するワタアブラムシに対する各種薬剤の殺虫効果	九州病害虫研究研究会報	59	108
岡本潤、雨川公洋	大分県におけるQoI剤耐性イネいもち病の発生	九州病害虫研究研究会報	59	111
鈴木智範、岡本潤、祖田嘉教、吉松英明	大分県におけるダイズ紫斑病耐性菌の発生実態	九州病害虫研究研究会報	59	111
後藤英世、岡本潤、鈴木智範	イチゴうどんこ病の近年の発生消長と夏期高温育苗による防除効果	九州病害虫研究研究会報	59	112
雨川公洋、大坪亮介、山崎修一	果実各部位に対するピーマン軟腐病の感染リスクの検討	九州病害虫研究研究会報	59	114
玉嶋勝範	大分県におけるナシマダラメイガの発生時期	九州病害虫研究研究会報	60	126
上島慧里子、岡崎真一郎、玉嶋勝範	夏秋ピーマンにおけるタバコガ類の発生予察基準策定に向けた取り組み	九州病害虫研究研究会報	59	127
加藤幸太郎、和田志乃、小野元治	大分県におけるイチゴのナミハダニに対する各種薬剤の殺虫効果	九州病害虫研究研究会報	59	128
祖田嘉教、岡崎真一郎、小野元治	根深ネギにおける植物病原菌類に対するネダニ類の選好性	九州病害虫研究研究会報	59	129
上島慧里子、加藤幸太郎、小野元治	大分県のキャベツ産地で採集したコナガに対する各種薬剤の殺虫効果	日本応用動物昆虫学会(講要集)	58	65
岡崎真一郎、米田恵美	本邦におけるスピノサド剤に対して薬剤感受性低下したミカンキイロアザミウマの初確認	日本応用動物昆虫学会(講要集)	58	66
岡崎真一郎他	ワタアブラムシにおけるネオニコチノイド抵抗性メカニズム	日本応用動物昆虫学会(講要集)	58	67
出口奈吾、影井雅夫	かん水量の違いが夏秋ピーマンの収量および土壌水分に与える影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	31
植谷博一、佐野雅俊、和田信一郎	小ネギ栽培土壌における葉先枯れ症の塩基の形態による危険度評価法	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	32
佐伯知勇、影井雅夫、和田信一郎	製鋼スラグ施用による黒ボク土の土壌化学性と環境負荷への影響 第一報：施用後1年以内の短期的な影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	42
大塚美希、上谷麻梨恵、藤谷信二	夏秋トマトの裂果発生に着目した品種比較	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	118
上谷麻梨恵、藤谷信二、木村真美	夏秋トマトのかん水方法の違いによる裂果軽減効果	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	119
姫野和洋、大塚美希	夏秋ピーマンにおけるかん水時間帯が尻腐れ果の発生に及ぼす影響(第1報)	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	122
中尾浩明、安部貞昭、山崎真居	イチゴの2本苗を活用した省力・低コスト育苗	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	130
加藤昌美、佐藤如、安部貞昭	大分方式Y型イチゴ高設ベンチを用いた灌水施肥栽培における排液および土壌溶液の硝酸イオン濃度およびEC	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	133
安部貞昭、山崎真居	イチゴ‘さがほのか’におけるかん水量とハウス素水溶液の施用が先しばり果発生に及ぼす影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	134
山崎真居、安部貞昭、中尾浩明	イチゴの長期間の夜冷短日処理における採苗時期が開花時期と収量に及ぼす影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	137
佐藤如、山崎真居、加藤昌美	イチゴの果実肥大、果実の大きさの揃い、果実糖度の評価について	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	141
上谷麻梨恵	「午前11時かん水」で裂果軽減	農業新聞	[夏秋取り] トマト特集号	7面

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H25. 7. 11	第18回農林害虫防除研究会奈良大会	上島慧里子・山下大輔・姫野和洋・大坪亮介・岡崎真一郎	夏秋ピーマン栽培におけるタバコガ類を対象とした防虫ネットの普及実態
H25.9.4	九州・沖縄マッチングフォーラム (ポスター展示)	大仲真喜子	「べにはるか」の特性を活かした新たなブランド製品づくり
H25.9.4	九州・沖縄マッチングフォーラム (ポスター展示)	濱田翔子	ニラの鮮度保持技術
H25. 9. 5	九州農業研究発表会	安部貞昭	イチゴ‘さがほのか’におけるかん水量とホウ素水溶液の施用が先しぼり果発生に及ぼす影響
H25. 9. 5	九州農業研究発表会	中尾浩明	イチゴの2本苗を活用した省力・低コスト育苗
H25. 9. 5	九州農業研究発表会	山崎真居	イチゴの長期間の夜冷短日処理における採苗時期が開花時期と収量に及ぼす影響
H25. 9. 5	九州農業研究発表会	加藤昌美	大分方式Y型イチゴ高設ベンチを用いた灌水施肥栽培における排液および土壌溶液の硝酸イオン濃度およびEC
H25. 9. 11	園芸学会九州支部	上谷麻梨恵	夏秋トマトの簡易果房遮光及びUVカットフィルムによる裂果軽減効果
H25. 9. 11	園芸学会九州支部	大塚美希	夏秋トマトの裂果発生に着目した品種比較
H25. 9. 11	園芸学会九州支部	姫野和洋	夏秋ピーマンにおけるかん水時間帯が尻腐れ果の発生に及ぼす影響(第1報)
H25. 10. 2	平成25年度日本土壌肥料学会九州支部秋季例会(九農研土壌肥料部会)	出口奈吾、影井雅夫	かん水量の違いが夏秋ピーマンの収量および土壌水分に与える影響
H25. 10. 2	平成25年度日本土壌肥料学会九州支部秋季例会(九農研土壌肥料部会)	埴谷博一、佐野雅俊、和田信一郎	小ネギ栽培土壌における葉先枯れ症の塩基の形態による危険度評価法
H25. 10. 3	平成25年度日本土壌肥料学会九州支部秋季例会(九農研土壌肥料部会)	佐伯知勇、影井雅夫、和田信一郎	製鋼スラグ施用による黒ボク土の土壌化学性と環境負荷への影響(第一報)
H25. 11. 13	第86回九州病害虫研究会	祖田嘉教・小野元治	根深ネギで発生する軟腐病および白絹病のネダニ類2種に対する誘引性の比較
H25. 11. 13	第86回九州病害虫研究会	岡崎真一郎・米田恵美	大分県の夏秋ピーマンで採集したミカンキイロアザミウマの各種薬剤に対する殺虫効果

(3) 研究会、学会等での発表(つづき)

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H26. 1. 29	平成25年度九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜・花き推進部会	衛本圭史	平坦地での根深ネギ、秋冬作型の安定生産技術の確立 1)セル苗の播種粒数および育苗日数が生育収量に及ぼす影響
H26. 2. 6	第87回九州病害虫研究会	加藤幸太郎・能見伊久絵	施設イチゴにおけるクロバネキノコバエ類の発生生態および本種幼虫の各種薬剤に対する殺虫効果
H26. 3. 28	第58回日本応用動物昆虫学会大会	上島慧里子・加藤幸太郎・小野元治	大分県のキャベツ産地で採集したコナガに対する各種薬剤の殺虫効果
H26. 3. 28	第58回日本応用動物昆虫学会大会	岡崎真一郎・米田恵美	本邦におけるスピノサド剤に対して感受性低下したミカンキイロアザミウマの初確認

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
研究状況報告会	H25. 10. 30	大分市(県庁)	1	50
土壌肥料・病害虫研究会	H26. 2. 18	花きグループ	1	62

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25. 4. 4	茶移植機による定植作業実演会	臼杵市	23	
H25. 4. 17	専門技術研修(基礎)	農業研究部	14	研究普及課
H25. 4. 23	大分県茶業協会製茶加工研修	杵築市	13	大分県茶業協会
H25. 5. 15	防虫ネット設置研修	臼杵市野津町	20	ピーマンプロ班、JA
H25. 5. 29	佐伯部会イチゴ環境制御講習会	JA佐伯木立選果場	15	南部振興局
H25. 5. 30	佐伯部会イチゴ環境制御講習会	蒲江町公民館	10	南部振興局
H25. 6. 5	専門能力強化研修(土壌肥料基礎)	豊後大野市	16	研究普及課
H25. 6. 7	ピーマン連絡協議会研修会	臼杵市野津町	150	大分県農協野津事業部
H25. 6. 7	ピーマン出荷目揃え会、防虫ネット設置研修	臼杵市野津町	50	大分県夏秋ピーマン連絡協議会
H25. 6. 12	水耕ネギ研修会	大分市	20	
H25. 6. 12	耶馬溪一番茶査定	中津市耶馬溪町	20	耶馬溪製茶
H25. 6. 13	杵築市イチゴ部会環境制御講習会	JA杵築事業部	30	東部振興局
H25. 6. 20	園芸技術者協議会環境制御研修会	農業文化公園	50	園芸技術者協議会
H25. 6. 25	サニープレイスファーム支援会議	佐伯市	15	南部振興局

(1) 講習会、研修会の開催(つづき)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25. 7. 17	第45回大分県茶品評会審査会	農業研究部	12	大分県茶業協会
H25. 7. 31	園芸技術者協議会いちご研修会	農業大学校	24	園芸技術者協議会
H25. 8. 2	紅茶研修会	日田市中津江	10	
H25. 8. 9	平成25年度手揉み茶研修会・一番茶作柄検討会	農業研究部	16	大分県茶業青年会
H25. 8. 26	いちご栽培技術研修会	全農おおいた	93	園芸振興室、園芸振興班
H25. 9. 3	大分なら広域共販技術者協議会役員会	JA東陽	10	中部振興局
H25. 9. 12	なら生産者研修会	JAおおいたカントリーエレベーター	30	中部振興局
H25. 9. 25	ピーマン園芸技術者協議会研修会	農林水産研究指導センター	25	園芸技術者協議会
H25. 10. 10	久住・阿蘇地域に分布する非アロフェン質黒ボク土の特徴と土壌管理セミナー	畜産研究部 畜産研修センター	38	(独)九州沖縄農業研究センター、畜産研究部
H25. 10. 16	大分県茶業協会茶園管理研修会	杵築市山香町	45	大分県茶業協会
H25. 10. 30	研究状況報告会	大分市(県庁)	50	センター本部
H25. 10. 31	トマト園芸技術者協議会研修会	農林水産研究指導センター	20	園芸技術者協議会
H25. 11. 7	なら生産者研修会	JA野津	17	中部振興局
H25. 11. 8	大分なら広域共販技術者協議会役員会	JAおおいたカントリーエレベーター	7	中部振興局
H25. 11. 12	普及指導員課題解決研修(普通作第2回)	大分市	40	集落水田対策室
H25. 12. 4	ピーマンプロ班根域調査研修会	玖珠町	6	ピーマンプロ班
H25. 12. 4	JAみどりトマト部会荻支部反省会	道の駅すごう	50	JA荻トマト部会
H25. 12. 18	施肥・防除対策研修会	大分市	150	おおいたブランド推進課
H25. 12. 18	施肥防除対策研修会	大分市	117	大分県肥料植物防疫協会
H25. 12. 19	園芸技術者協議会 白ネギ研修会	農業研究部	7	園芸技術者協議会
H26. 1. 21	畑作物抵抗性病害虫の防除に関する検討会	名古屋市	250	近畿農政局、北陸農政局、東海農政局
H26. 1. 31	北部地域白ネギ研修会	豊後高田市	50	
H26. 2. 3	農薬指導士認定研修	大分県教育会館	120	おおいたブランド推進課
H26. 2. 3	トマト園芸技術者協議会研修会	JA臼杵事業部	30	園芸技術者協議会
H26. 2. 4	ピーマン園芸技術者協議会研修会	農林水産研究指導センター	30	園芸技術者協議会
H26. 2. 5	平成25年品質管理研修会	農業研究部	41	県内ドリンク茶法人
H26. 2. 7	園芸技術者協議会 小ネギ研修会	農業研究部	6	園芸技術者協議会
H26. 2. 14	ウイルス媒介性昆虫の総合防除	兵庫県宝塚市	100	住友化学(株) 健康・農業関連事業研究所
H26. 2. 14	平成25年度九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会	鹿児島市	50	九州沖縄地区病害虫防除所職員連絡協議会、九州農政局
H26. 2. 18	サニーレイスファーム支援会議	佐伯市	15	南部振興局
H26. 2. 24	茶園難防除害虫対策研修会	杵築市山香町	40	県内生産者
H26. 2. 25	平成25年度大分県園芸技術者協議会全員研修会	大分県教育会館	60	園芸技術者協議会
H26. 2. 26	園芸技術者協議会 ニラ研修会	JA佐伯	13	園芸技術者協議会

(1) 講習会、研修会の開催（つづき）

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H26. 3. 11	高糖度かんしょ推進協議会	農業研究部	14	園芸振興室
H26. 3. 11	養液管理ソフト「ベストブレンド」操作研修会	農林水産研究指導センター	6	農業研究部
H26. 3. 20	ピーマン水管理研修会	玖珠町	6	西部普及員、JA、生産者
H26. 3. 24	白ネギ病害虫講習会	豊後高田市	50	

(2) 受入研修

①長期研修者受入

氏名	所属	研修内容	期間
江藤 太一	農業大学校	イチゴのハウス内環境制御	H25. 4. 1～H25. 5. 31
梅本 雄太	農業大学校	イチゴのハウス内環境制御	H25. 9. 1～H26. 3. 31
伊東 拓真	農業大学校	側枝を利用したトマトの低段密植栽培の検討	H25. 9. 1～H26. 11. 30
神代 朋子	農業大学校	トマトの低段密植栽培における二段採り栽培の検討	H25. 11～H26. 10
坪島 将太	農業大学校	ピーマンの尻腐れ果低減技術の検討	H25. 1～H25. 11
田原 達統	農業大学校	根深ネギ（5月どり作型）の栽培技術の検討	H25. 9. 1～H26. 11. 30
平木 誼之	農業大学校	茶の基本的な知識・作業の習得	H25. 10. 10～H26. 2. 13

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	18	214
団体等職員	18	27
普及指導員	47	108
学生	1	1（5日間）
海外研修者	0	0
その他	18	23
水田農業グループ	1	1（2日間）
果樹グループ	1	1（2日間）

(3) 指導・研修プロジェクトの実証 なし

5. 受賞及び学位の取得等

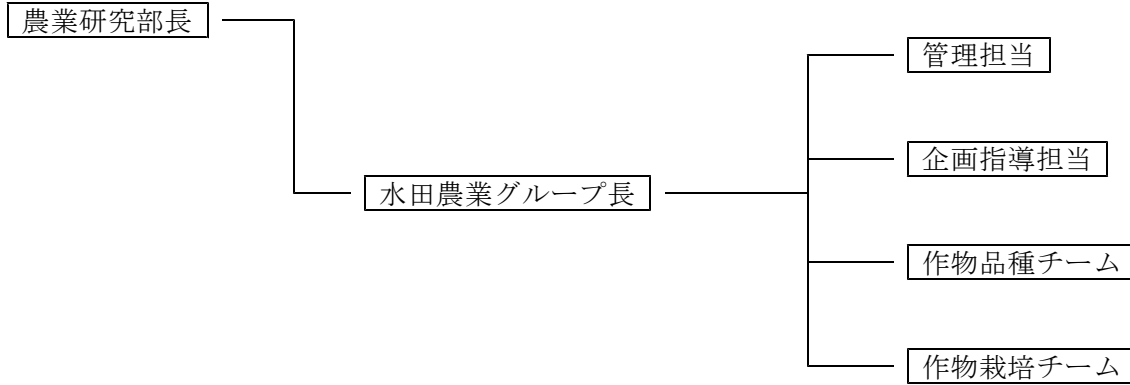
学位取得

職名	氏名	取得年月日	取得大学	学位	学位論文テーマ
主任研究員	岡崎 真一郎	平成25年9月24日	九州大学	博士（農学）	ピーマンを加害するトマト黄化えそウイルス（TSWV）媒介者ミカンキイロアザミウマの総合的防除に関する研究

Ⅱ-2 水田農業グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
	事務	技術						
グループ長		1					1	広域普及指導員 1名
管理担当	3					1	4	
企画指導担当		2					2	
作物品種チーム		4	1				5	
作物栽培チーム		4	4				8	
計	3	11	5			1	20	

(3) 業務

- ①水田農業の確立に関する試験研究
- ②水稲・麦・大豆の新品種育成及び栽培技術改善
- ③水稲・麦・大豆優良種子生産事業
- ④米・麦・大豆の安全安心技術に関する試験研究
- ⑤気象情報及び技術情報の管理と情報発信

2. 試験研究課題

試験研究課題名		担当	連携機関	試験期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発					
1 ブランド化のための技術開発					
1)	大分ブランド確立のための焼酎用大麦品種の育成		作物品種	大分県酒造組合、産業科学技術センター	H17～26 県単
2)	水稲・麦・大豆の品種選定		作物品種 作物栽培	振興局、(独)農研機構	H25～27 県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発					
3)	水位制御技術を用いた節水・省力型の土地利用作物輪作体系の構築		作物栽培	水田底力コンソーシアム、九州大学	H24～26 委託
4)	中山間地域を中心とした畦畔管理の省力・低コスト技術の開発		作物栽培	振興局	H24～26 県単
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発					
5)	平坦地への作付け拡大に向けた水稲品種「つや姫」の高品質・安定生産技術の確立		作物品種	振興局、農業研究部、別府大学	H25～27 県単
5 地球資源の活用と省エネルギーの技術開発					
6)	戦略品目としての水稲飼料作栽培モデルの確立		作物栽培	畜産研究部	H24～26 県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立					
7)	主要農作物等種子対策事業		作物栽培	集落・水田対策室	長期 県単
	(1) 稲、麦、大豆原種育成及び特別増殖圃設置事業				
	(2) 稲、麦、大豆原種生産				

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
水田夏作試験成績書	H25.5.15	246	50
水田冬作試験成績書	H25.11.29	80	50

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
田中啓二郎	大分県における飼料用米品種「ホシアオバ」の選定と栽培法の確立	鶏の研究	2013年9月号	60-64

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H25.9.2	九州農業研究発表会	近乗偉夫	不耕起対応トウモロコシ播種機を利用した水稲乾田直播栽培への適応性
H25.9.5	九州農業研究発表会	森山修志	地下水位制御システム(FOEAS)を活用した大豆の収量安定化
H25.9.5	九州農業研究発表会	白石真貴夫	大分県における極早生品種「つや姫」の施肥について
H25.11.14	関東東海北陸農業試験研究推進会議 北陸農業部会 平成25年度 冬作物技術研究会	白石真貴夫	販路から逆算した麦類の生産普及

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
農林水産研究指導センター研究紹介	H25. 12. 10	大分市 コンパルホール	1	190

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H25. 4. 22	つや姫栽培研修会	国東市	10	東部振興局
H25. 4. 24	つや姫栽培研修会	杵築市大田	25	東部振興局
H25. 5. 20～22	専門技術基礎研修(普通作物)	水田農業グループ	6	研究普及課
H25. 6. 25	大豆250kgどり栽培技術研修会	由布市	35	中部振興局
H25. 6. 28	大豆播種前研修会	国東市	30	東部振興局
H25. 7. 9	竹田市つや姫中間管理研修会	竹田市	90	豊肥振興局
H25. 7. 12	山香地区つや姫中間管理研修会	杵築市山香町	30	東部振興局
H25. 7. 17	杵築地区つや姫中間管理研修会	杵築市	30	東部振興局
H25. 7. 18	国東地区つや姫中間管理研修会	国東市	15	東部振興局
H25. 7. 24	つや姫栽培研修会	中津市山国町	20	北部振興局
H25. 8. 5	豊後大野市つや姫栽培講習会	豊後大野市	45	豊肥振興局
H25. 8. 6～7	専門技術基礎研修(普通作物)	水田農業グループ	5	研究普及課
H25. 8. 21	作物担当普及員プロジェクト研修	水田農業グループ	35	研究普及課
H25. 8. 30	つや姫適期収穫研修会	竹田市	50	豊肥振興局
H25. 9. 3	米に関するセミナー	宇佐市	100	大分県農協
H25. 10. 24	麦播種前研修会	国東市	40	東部振興局
H25. 10. 30	麦播種前研修会	豊後大野市	35	豊肥振興局
H25. 10. 31	中部地区麦作研修会	大分市	50	中部振興局
H25. 11. 1	中津地区麦類安定栽培技術現地研修会	中津市	60	北部振興局
H25. 11. 12	作物担当普及員プロジェクト研修	大分市	35	研究普及課
H25. 12. 2	つや姫試験栽培報告および導入検討会	玖珠町	16	西部振興局
H25. 12. 4	専門技術基礎研修(普通作物)	水田農業グループ	5	研究普及課
H25. 12. 9	麦大豆共励会表彰式・研修会	大分市	200	集落・水田対策室
H26. 1. 9	日田地区つや姫実績検討・説明会	日田市	30	西部振興局
H26. 1. 22	豊肥地区つや姫栽培研修会	竹田市	80	豊肥振興局
H26. 1. 23	山香地区つや姫栽培研修会	杵築市山香町	30	東部振興局
H26. 2. 4	大分つや姫検討会(臼杵市野津地区)	臼杵市野津町	16	中部振興局
H26. 2. 7	大田地区つや姫栽培研修会	杵築市大田	15	東部振興局
H26. 3. 10	作物担当普及員プロジェクト研修	水田農業グループ	35	研究普及課
H26. 3. 12	杵築地区つや姫栽培研修会	杵築市	25	東部振興局
H26. 3. 14	国東地区つや姫栽培研修会	国東市	30	東部振興局

(2) 受入研修

①長期研修者受入 なし

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	4	72
団体等職員	0	0
普及指導員	2	4
学生	0	0
海外研修者	0	0
その他	4	4

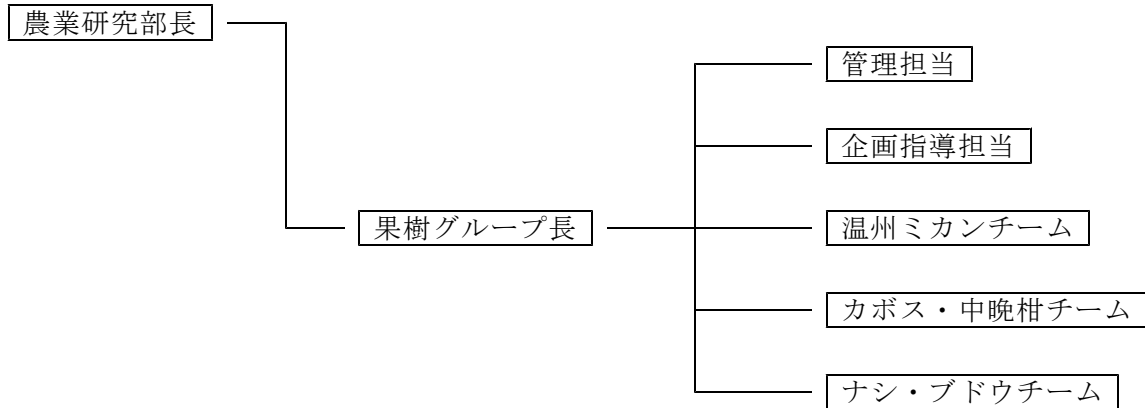
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課 題 名	目 的	現地実証等の概要
高温登熟耐性に優れる水稻新品種「つや姫」の安定生産技術確立	作成した栽培マニュアルによる実証圃を設置し、生産者への技術定着を図る。	県下17カ所で実証圃を設置し、生育状況調査を行うとともに、栽培研修会を開催した。

Ⅱ-3 果樹グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織 \ 職種	職員		技 師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
	事務	技術						
グループ長		1					1	広域普及指導員 2名
管理担当	1					1	2	
企画指導担当		3					3	
温州ミカンチーム		4		2			6	
カボス・中晩柑チーム		4		1			5	
ナシ・ブドウチーム		5	2		1		8	
計	1	17	2	3	1	1	25	

(3) 業務

- ①温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ②カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ③ナシ・ブドウ等の優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ④ハウスミカン、施設中晩柑に関する試験研究
- ⑤カンキツ及び落葉果樹の病害虫に関する試験研究
- ⑥生産者に対する研修及び現地指導

2. 試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1)小課題 (1)試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
1) 優良品種の選定と栽培技術確立				
(1) カンキツ系統適応性検定試験	温州ミカンチーム カボス・中晩柑チーム		25～27	県単
(2) 落葉果樹の系統選抜検定試験	ナシ・ブドウチーム		25～27	県単
(3) カンキツ新品種「大分果研4号」の高品質化技術	カボス・中晩柑チーム		21～25	県単
(4) 県オリジナル品種「大分果研4号」の省エネ施設栽培技術の確立	温州ミカンチーム		25～27	県単
(5) ブドウ新品種「シャインマスカット」の高品質・安定生産技術	ナシ・ブドウチーム		21～25	県単
(6) ナシ産地を脅かす薬剤耐性菌の蔓延防止と防除技術の確立	ナシ・ブドウチーム		25～27	県単
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
(7) 生き残りをかけた高付加価値ミカン栽培技術	温州ミカンチーム		21～25	県単
(8) 秋冬商材への対応を狙ったカボスの高品質・低コスト技術の確立	カボス・中晩柑チーム		25～27	県単
(9) 果樹の病害虫防除並びに植物生長調節剤に関する試験			25～27	県単
温州ミカンチーム、カボス・中晩柑チーム	温州ミカンチーム			
ナシ・ブドウチーム	カボス・中晩柑チーム ナシ・ブドウチーム			
(10) ブドウ産地再興をかけた特色あるワイン専用品種の開発	ナシ・ブドウチーム	三和酒類	24～26	県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
(11) ナシの大苗育苗と流線型仕立てによる早期成園化技術の確立	ナシ・ブドウチーム		23～25	県単
4 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
(12) 脱暖房新栽培システムと被覆改善によるハウスミカン栽培技術の確立	温州ミカンチーム	九州大	24～26	県単
5 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
(13) 農業情報(生育状況)の提供	果樹グループ		長期	県単
カンキツの生態調査				
落葉果樹の生態調査				
(14) 優良品種系統の原母樹の確保と優良穂木の供給	果樹グループ		長期	県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成24年度大分県農林水産研究指導センター果樹グループ試験研究年報CD版	平成26年2月	230	150

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
福田 賢二	成園まで3年を可能にするなしの大苗育苗と「流線型仕立」	グリーンレポート	No.533 11月	6~7
矢野 拓	EOD-heatingがハウスミカン開花前後の生育に及ぼす影響	九州沖縄農業試験研究成果情報	九農研HP	
釘宮 伸明	給水ホルダーとパラフィンテープ併用によるブドウ「シャインマスカット」の低温貯蔵法	九州沖縄農業試験研究成果情報	九農研HP	
福田 賢二	大苗育苗と「流線型仕立」によるニホンナシの早期成園化	九州沖縄農業試験研究成果情報	九農研HP	

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H25.9.5	園芸学会九州支部	矢野 拓	EOD-heatingがハウスミカンにおける蕾の肥大と開花に及ぼす影響
H25.9.5	園芸学会九州支部	佐藤 洋平	1-MCPが「新高」「あきづき」の長期貯蔵に及ぼす影響
H25.9.20	園芸学会平成25年度秋季大会	矢野 拓	ハウスミカン夏枝母枝におけるマイクロアレイ解析
H25.11.23	日本気象学会九州支部・日本生物環境工学会九州支部	矢野 拓	ハウスミカン果実の水・炭素収支に及ぼす夜温の影響
H26.3.29	園芸学会平成26年度春季大会	矢野 拓	近赤外線放射と光合成有効放射との比によるハウスミカン葉面積指数(LAI)の推定
H26.3.29	園芸学会平成26年度春季大会	福田 賢二	大苗と「流線型仕立」によるニホンナシの超早期成園化技術の確立

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
九州沖縄地域マッチングフォーラム	H25.9.4	立命館アジア太平洋大学	1	250
研究紹介	H25.12.10	大分市コンパルホール	1	190

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H25.5.22	JAハウスデコボン部会研修会	杵築柑橘選果場	31	JAハウスデコボン部会
H25.6.14	露地みかん栽培研修会	杵築柑橘選果場	60	JA柑橘研究会杵築露地みかん部会
H25.6.17	カボス特選園栽培管理講習会	豊後高田市、杵築市	28	JAおおいた
H25.6.18	大分県柑橘研究会青年部研修会	日出町	23	大分県柑橘研究会青年部
H25.6.26	大分県カボス生産者協議会研修会	大分市	16	大分県カボス生産者協議会
H25.7.4	大分市ミカンパエ防除対策研修会	大分市	30	大分市、中部振興局
H25.7.5	臼杵市ミカンパエ防除対策研修会	県南柑橘選果場	20	臼杵市、中部振興局
H25.7.11	大分県柑橘研究会中晩柑研修会	県南柑橘選果場	58	大分県柑橘研究会
H25.8.23	大分県柑橘研究会露地みかん研修会	杵築柑橘選果場	74	大分県柑橘研究会
H25.8.26	JAハウスデコボン部会研修会	杵築柑橘選果場	31	JAハウスデコボン部会
H26.9.11	若手普及員研修	ナシ・ブドウチーム	3	研究普及課
H25.10.2	みかん園検査識別研修	大分市	30	おおいたブランド推進課
H25.10.16	豊後高田市アグリチャレンジスクール	豊後高田市	15	豊後高田市
H26.10.20	若手普及員研修	ナシ・ブドウチーム	3	研究普及課
H25.11.11	省エネ研修会	日出町	23	園芸技術者協議会果樹部会
H26.11.12	シャインマスカット研修会	ナシ・ブドウチーム	50	県ブドウ研究会
H26.11.15	落葉果樹剪定研修会	ナシ・ブドウチーム	20	技術者協議会
H26.11.29	ナシ剪定研修会	日田市	120	県ナシ研究会
H25.12.10	JAハウスデコボン部会せん定講習会	津久見市	15	JAハウスデコボン部会
H25.12.24	果樹防除暦検討会	大分市	33	園芸技術者協議会果樹部会
H25.12.25	JAハウスデコボン部会せん定講習会	杵築市	20	JAハウスデコボン部会
H26.1.27	大分県柑橘研究会ハウスみかん研修会	杵築柑橘選果場	80	大分県柑橘研究会
H26.1.31	ナシ流線型仕立研修会	庄内町	12	研究普及課
H26.2.12	カボス地区別研修会	臼杵市	60	大分県カボス生産者協議会
H26.2.12	カボスがつなぐ山と海との交流会	臼杵市	80	大分県カボス振興協議会
H25.2.17	カボス地区別研修会	豊後高田市	35	大分県カボス生産者協議会
H26.2.26	カボス地区別研修会	竹田市	73	大分県カボス生産者協議会
H26.3.3	中晩柑類の品種検討会	津久見市(カボス・中晩柑T)	15	園芸技術者協議会果樹部会
H26.3.5	豊後高田市アグリチャレンジスクール	豊後高田市	12	豊後高田市
H26.3.6	ユズせん定講習会	宇佐市	25	JA宇佐事業部
H26.3.10	カンキツせん定講習会	宇佐市	20	JA宇佐事業部
H26.3.11	温州ミカン・カボスせん定講習会	豊後高田市	20	JA豊後高田事業部

(2) 受入研修

①長期研修者受入 なし

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	88	633
団体等職員	42	84
改良普及指導員（公務員）	30	75
学生	13	76
海外研修者	0	0
その他	25	52
計	198	920

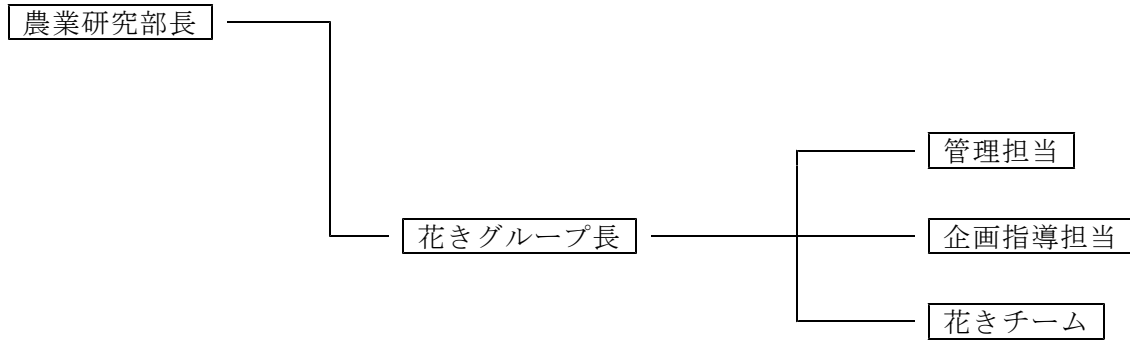
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
省エネ施設栽培に適するカンキツ新品種の選定と栽培技術の確立	「大分果研4号」の品質向上を支援し、大分県の新たなブランドみかんとして産地化を推進する	現地実証圃2カ所でマルチ資材を設置し、「大分果研4号」の着色促進効果を実証した。その結果、着色は良好であった。産地全体では、「大分果研4号」の特選品ゼリーオレンジ・サンセレブの出荷率が60%から80%向上した。
次世代を担うナシ新品種の栽培技術の確立	「あきづき」の高品質・安定生産技術を普及し、産地化を図る	「あきづき」の収穫遅れによる品質低下を防止するため、着色程度判定表を作成し、生産者に配布。その活用を図った結果、過熟による品質低下を減少することができた。

Ⅱ-4 花きグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長			1					1	
管理担当		1						1	
企画指導担当			2					2	広域普及指導員 1名
花きチーム			6	1		1		8	
計		1	9	1		1		12	

(3) 業務

- ①花きの栽培および病害虫に関する研究
- ②花きの研究成果の現地普及
- ③花き優良種苗の供給
- ④花き指導者、生産者に対する指導

2. 試験研究課題

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題				
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発					
1 ブランド化のための技術開発					
1)	キクの系統選抜と効率的種苗生産技術開発		花きチーム	H25～27	県単
	(1) キクの系統選抜				
	(2) 効率的種苗生産技術開発				
2)	露地及び簡易施設による低コスト栽培技術の確立		花きチーム	H25～27	県単
	(1) 露地における低コスト栽培技術				
	(2) 簡易施設における低コスト栽培技術				
	(3) 施設の効率的利用法の検討				
3)	ホオズキの量販需要対応技術開発と生理解明		花きチーム	H23～25	県単
	(1) 量販需要対応技術確立				
	(2) 生理解明				
4)	大分県オリジナルトルコギキョウの育種と栽培技術の確立		花きチーム	H23～25	県単
	(1) 切り花用トルコギキョウの育種と栽培技術の確立				
	(2) 鉢物用品種の育種と栽培技術の確立				
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発					
1)	花き類の難防除害虫（ミナミキイロアザミウマ）防除技術の確立		花きチーム	病害虫チーム	H25～27 県単、委託
	(1) 病害虫診断と新病害虫の同定				
	(2) 病害虫の効率的防除法確立				
2)	花き類の日持ち性の評価と鮮度保持対策		花きチーム	H25～27	県単
	(1) 花き類の日持ち性の評価				
3)	エコ맘効率生産・流通体系の確立		花きチーム	※1	H24～26 国庫（10/10）
	(1) エコ맘（輪ギク）年4作生産方式の実証				
3 力強い担い手を育成するための技術開発					
1)	バラの新たな冬期栽培管理技術の開発		花きチーム	H24～26	県単
	(1) 一時休眠作型における栽培管理技術				
	(2) 移動栽培				
	(3) 補完品目の検討				
2)	施設内環境制御技術の確立		花きチーム	H25～27	県単
	(1) バラの施設内環境制御技術の検討				
○その他試験、品種保存		花きチーム			
1)	アルストロメリアの有望品種の選定				
2)	スイートピーの育種				
3)	シュッコンアスターの品種保存				
4)	新テッポウユリの品種保存				
5)	センリョウの品種保存				

※1 農研機構花き研、なにかわいちば、茨城県、鹿児島県、愛知県、愛知県経済連

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行 なし

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
米田恵美・菊池徳宏・ 信貴素子・岡崎真一郎	施設輪ギクにおけるミナミキイロアザミウマの発生活長	九州農業研究発表会発表要旨集	第76回	151
富満龍徳・渡邊英城・ 後藤 愛・安波朗子	わい性トルコギキョウ'チェリービー'の育成と栽培特性	九州農業研究発表会発表要旨集	第76回	152
甲斐克明・吉松修治・ 國本忠正	輪ギク(エコمام)年4作生産方式の実証 -12月出荷作型における栽植様式の検討-	九州農業研究発表会発表要旨集	第76回	157
米田恵美・菊池徳宏・ 松成寿代	スワルスキーカブリダニを利用した施設ホオズキの主要害虫防除	九州農業研究発表会発表要旨集	第76回	158
富満龍徳	新たな需要を生み出すわい性トルコギキョウ「チェリービー」の育成と商品化	平成25年度九州沖縄地域マッチングフォーラム発表要旨集		14~20
甲斐克明	エコمام(輪ギク)年4作生産に向けて -JAおおいたの取り組み-	農耕と園芸	2014年2月	60~64

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
平成25年9月4日	平成25年度九州沖縄地域 マッチングフォーラム	富満龍徳	新たな需要を生み出すわい性トルコギキョウ「チェリービー」の育成と商品化
平成25年9月5日	九州農業研究発表会	米田恵美	施設輪ギクにおけるミナミキイロアザミウマの発生活長
平成25年9月5日	九州農業研究発表会	富満龍徳	わい性トルコギキョウ'チェリービー'の育成と栽培特性
平成25年9月12日	農食研究「きくイノベ」・ 農水委託「光プロ」合同シンポジウム	甲斐克明	輪ギク(エコمام)年4作生産に向けて -JAおおいたの取り組み-

4) 研究成果発表会 なし

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
6月7日	チェリービー研修会	花きグループ	10	主催
6月11日	ホオズキ研修会	杵築市	25	大分県園芸技術者協議会
7月4日	トルコギキョウ土壌消毒研修会	大会議室	30	主催
7月5日	トルコギキョウ土壌消毒研修会	豊後高田市、日田市	10	主催(講師派遣)
7月11日	ホオズキ研修会	豊後高田市	25	大分県園芸技術者協議会
8月16日	ホオズキは種研修会	花きグループ	10	主催
8月17日	ストック八重鑑別研修	花きグループ	8	主催
9月20日	ストック八重鑑別研修	花きグループ	8	主催
9月20日	トルコギキョウ合同研修会	竹田市等	10	主催
9月25日	少量培地研修会	花きグループ	20	主催
10月22日	趣味の園芸講座(第1回)	花きグループ	40	主催
10月28日	トルコギキョウ研修会	花きグループ	30	主催
11月27日	トルコギキョウ合同研修会	佐伯市	15	主催
12月10日	スイートピー研修会	高田事業部	30	主催
12月17日	トルコギキョウ品種検討会	花きグループ	40	講師派遣
12月17日	ストック研修会	花きグループ	40	主催
12月26日	趣味の園芸講座(第2回)	花きグループ	40	主催
1月21日	統合環境制御技術研修会	花きグループ	30	大分県園芸技術者協議会
2月5日	花き少量培地栽培研修会	花きグループ	30	大分県園芸技術者協議会
2月12日	女将の会園芸講座	おにやまホテル	10	主催
2月25日	趣味の園芸講座(第3回)	花きグループ	40	主催
2月25日	大分県園芸技術者協議会全員研修会	大分市(教育会館)	100	大分県園芸技術者協議会
2月26日	LED研修会	国東市	30	大分県園芸技術者協議会

(2) 受入研修

① 長期研修者受入 なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者(団体職員含む)	8	69
普及指導員	2	4
学生	3	13
児童・生徒	2	120
海外からの視察者	2	27
その他	23	302
計	40	535

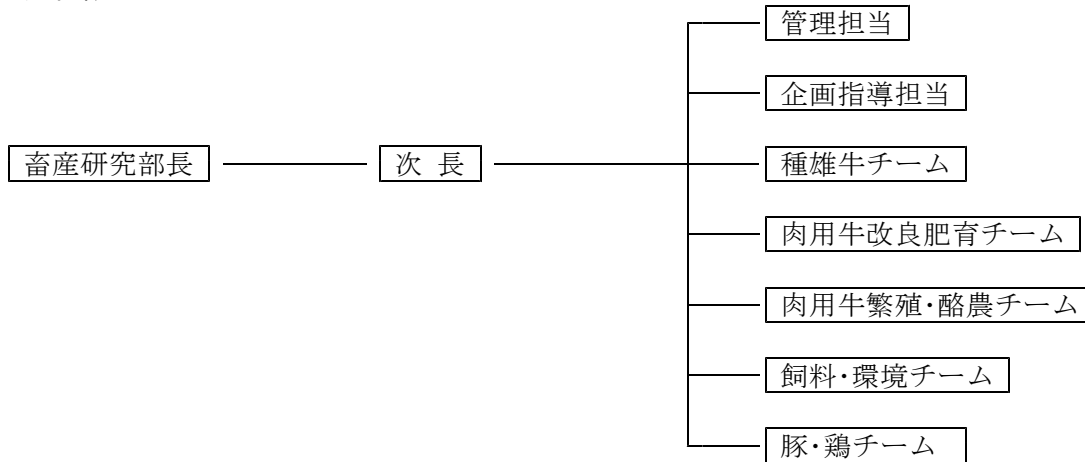
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
エコمام（輪ギク） 年4作生産方式の実証	競争的資金を活用し近年、需要が高まっている草丈60cmのエコمام（量販店で販売されるパック用の短茎ギク）を、物日を中心に年4作を行うための栽培技術の実証と市場性および経営の評価に基づく検証を行う。	<p>〈実証圃の概要〉</p> <p>（株）花畑（杵築市）が栽培面積11aの規模で実証に取り組み、エコمامの6、9、12月および3月出しを行う。</p> <p>〈成果（実績）の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7条植え（60千本）までは可能。 ・温度確保により十分な草丈と適期出荷が可能。 ・EOD-FR技術を活用すると、各作型において5cm程度の伸長効果がみられた。 ・エコمامの栽培実証を行った結果、平均栽植本数53千本/10a、平均出荷率87.4%であった。
鉢物トルコギキョウの育種鉢物用品種の育成	平成23年5月に品種登録された「チェリービー」の商品化を早期に実現するため、栽培技術の確立、市場調査を行う。	<p>〈実証圃の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作型の拡大および商品化率の向上。 ・新たに育成した「チェリービー2号」、「チェリービー3号」の商品化に向けた試作を行う。 <p>〈成果（実績）の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春作は品質も良く18,000鉢程度の出荷が見込まれ、市場評価も高く販売も順調であった。 ・秋作は高温による早期開花でボリューム不足となり計画通りの出荷ができなかった。

II-5 畜産研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部長			1					1	広域普及指導員 3名
次長		1	1					2	
管理担当		3						3	
企画指導担当			5					5	
種雄牛チーム			2	2	2			6	
肉用牛改良肥育チーム			3	3	1			7	
肉用牛繁殖・酪農チーム			5	5	3			13	
飼料・環境チーム			4	4				8	
豚・鶏チーム			6	2	3	1		12	
計		4	27	16	9	1		57	

(3) 業務

- ①肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給
- ②肉用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ③乳用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ④牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策
- ⑤豚の育種、飼養管理技術並びに精液供給
- ⑥家禽の育種並びに飼養管理技術

2. 平成25年度試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1)小課題 (1)試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
1) 良食味・機能成分を含む牛肉生産技術の検討 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 「豊味(うま)い」の証」豊後牛生産技術の確立 	企画、改良、肉醜		H24～26	県単
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1) 「おおい冠地どり」等鶏の改良及び飼養管理技術 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 「おおい冠地どり」の生産性等向上試験 ■ (2) 「おおい冠地どり」の胸肉割合改良試験 	豚・鶏 豚・鶏	家畜改良センター	H23～25 H24～26	県単 県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
1) 牛の体内受精卵移植技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 乳牛の雌選別精液を用いた人工授精の受胎率向上に関する研究 ■ (2) 経膈採卵及び雌選別精液を用いた体外受精による効率的高泌乳牛生産方法の確立 	肉用牛繁殖・酪農 肉用牛繁殖・酪農	青森県・宮城県・奈良県・山口県・高知県・宮崎県	H25～27 H24～26	県単 県単
2) 豚凍結精液等利用技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) ブタ精巢上体精子の凍結保存技術の確立と人工授精法の開発 ■ (2) ウシ凍結精液による人工授精技術の修正と高度化 	豚・鶏 プロジェクト(改良、種雄牛、肉醜、豚鶏)		H25～26 H25～27	県単 県単
3) 子牛の低コスト生産技術の検討 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 焼酎粕濃縮液とイネ発酵粗飼料を活用した肉用牛子牛育成技術の開発 	飼養、肉農		H25～27	受託
4) 省力的な肥育牛管理技術の検討 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) とよのくに一本化体系における「縮まり」の改善方法の検討 	肉用牛繁殖・酪農		H24～26	県単
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
5 地域資源の活用と省エネルギーの開発技術				
1) 牛の耕作放棄地放牧技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 耕作放棄地解消後の圃場における周年放牧の確立 	飼料・環境	九沖農研センター	H22～26	受託
2) 未利用資源の牛への飼料化技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 大豆煮汁の乳牛用飼料への利用方法の検討 ア. 大豆煮汁の乳牛用飼料への利用方法の検討 イ. 大豆煮汁発酵液から生まれる「牛の活力ドリンク剤」の開発 	肉用牛繁殖・酪農 肉用牛繁殖・酪農	大分県酪・大分大学・大分みそ協同組合・産業科学技術センター ファームテック(株)・大分大学・大分みそ協同組合	H24～26 H25～26	県単 受託
3) 永年草地における生産性と強害雑草対策 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 新しい簡易更新技術と長期間牧草維持可能な収穫作業体系の確立 	飼料・環境		H24～26	県単
4) 新型作業機の導入適正 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) ダイレクト収穫による二毛作、二期作体系の確立 	飼料・環境		H24～26	県単
5) 未利用資源の豚への飼料化技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 飼料用米を利用した豚飼養技術の確立 	豚・鶏	九沖農研センター・佐賀県・長崎県・熊本県	H21～26	受託
II 研究を支える基礎的データ収集と優良種苗等供給体制の確立				
1 優秀種雄牛の造成				
1) 種雄牛検定 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 直接法 ■ (2) 現場後代検定法 	豊後牛改良 豊後牛改良 豊後牛改良		長期 長期 長期	県単 県単 県単
2) 大分県種雄牛の産肉性に関する遺伝子領域解析及び効果検証				
2 牧草・飼料作物の優良品種・系統の選定				
1) 牧草類・飼料作物の奨励品種選定試験 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) どうもろこし ■ (2) イタリアンライグラス ■ (3) ソルガム 	飼料・環境 飼料・環境 飼料・環境	(独)九沖農研セ、九州各県 (独)九沖農研セ、九州各県 (独)九沖農研セ、九州各県	S55～長期 S55～長期 S55～長期	県単、受託 県単、受託 県単、受託
3 系統造成豚の長期維持と改良及び優良種子豚等の供給				
1) 原種豚の改良維持及び増殖 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) ランドレース種の系統維持・増殖 ■ (2) 大ヨークシャ種の改良・増殖 ■ (3) デュロック種の能力維持 	豚・鶏 豚・鶏 豚・鶏		H19～長期 H19～長期 H21～長期	県単 県単 県単
4 「おおい冠地どり」等原種鶏の改良と優良種苗等の安定供給				
1) 原種鶏の系統維持及び増殖 <ul style="list-style-type: none"> ■ (1) 「豊のしゃも」原種鶏 ■ (2) 「おおい冠地どり」原種鶏 ■ (3) 「おおい烏骨鶏」原種鶏 	豚・鶏 豚・鶏 豚・鶏		H元～長期 H元～長期 H元～長期	県単 県単 県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
畜産研究部 要覧	H26.1	12頁	1,000部
畜産研究センター 要覧	H26.8	8頁	1,000部

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
金丸英伸	ソルガムの放牧利用で自給飼料の増産を	酪農ジャーナル	第67巻第2号	25-27
金丸英伸	BMR®スイートの放牧利用で自給飼料の増産を	牧草と園芸	第62巻第2号	16-19
藤田達男、倉原貴美、安達 聡、竹嶋伸之輔、松本有生、間 陽子	ウシMHC遺伝子マーカーを指標とした牛白血病発症抵抗性遺伝子保有黒毛和種種雄牛の造成	大分県獣医師会誌	2013年度	5-10
安達 聡、倉原貴美、首藤洋三、長岡健朗、藤田達男	黒毛和種における牛白血病の経乳感染防除に向けた完全人工哺育の有効性の検討	大分県獣医師会誌	2013年度	22-23
Nishimaki T, Ibi T, Tanabe Y, Miyazaki Y, Kobayashi N, Matsuhashi T, Akiyama T, Yoshida E, Imai K, Matsui M, Uemura K, Watanabe N, Fujita T, Saito Y, Komatsu T, Yamada T, Mannen H, Sasazaki S, Kunieda T.	The assessment of genetic diversity within and among the eight subpopulations of Japanese Black cattle using 52 microsatellite markers.	Animal Sci. J	(2013), 84(8)	585-591

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H25.8.13	日本胚移植研究会	藤田 達男	ウシMHCマーカーを指標とした牛白血病白血病発症抵抗性遺伝子保有黒毛和種種雄牛の造成
H25.9.4	九州農業研究マッチングフォーラム	藤田 達男	ウシMHCマーカーを指標とした牛白血病白血病発症抵抗性遺伝子保有黒毛和種種雄牛の造成(ポスター発表)
H25.9.5	第76回九州農業研究発表会	藤田 達男	ウシMHCマーカーを指標とした牛白血病白血病発症抵抗性遺伝子保有黒毛和種種雄牛の造成
		金丸 英伸	イタリアンライグラス及びソルガムを用いた周年放牧による黒毛和種去勢牛の肥育
		安達 聡	黒毛和種における牛白血病の経乳感染防除に向けた完全人工哺育の有効性の検討
		岡崎 哲司	ブタ凍結精液の融解液に添加する精漿が白血球分化に果たす役割
		秋好 禎一	肥育豚への野菜エコフィードと麦焼酎粕の組み合わせ給与が及ぼす発育への影響
阿南加治男	おおい冠地どりの胸肉割合改良試験(第1報)		
H25.10.10	第99回日本養豚学会	岡崎 哲司	ブタ精液中白血球は精子ROS活性を高め運動性を低下させる
		秋好 禎一	飼料用米70%配合が暑熱環境下の肥育前期豚の飼養成績に及ぼす影響
H25.10.12	九州地区獣医師大会	藤田 達男	ウシMHCマーカーを指標とした牛白血病白血病発症抵抗性遺伝子保有黒毛和種種雄牛の造成
		安達 聡	黒毛和種における牛白血病の経乳感染防除に向けた完全人工哺育の有効性の検討
H25.10.26・27	日本暖地畜産学会	倉原 貴美	稲発酵粗飼料及び麦焼酎粕濃縮液混合飼料の利用技術の確立(肉用子牛への給与技術の確立)
		金丸 英伸	周年放牧によって得られた黒毛和種去勢牛の産肉成績
H25.11.22	第62回大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会	倉原 貴美	稲発酵粗飼料及び麦焼酎粕濃縮液混合飼料の利用技術の確立(肉用子牛への給与技術の確立)
		岡崎 雅紀	大豆煮汁の乳用牛飼料への利用方法の検討
		阿南加治男	おおい冠地どりの胸肉割合改良試験(第1報)
人見 徹	殺ダニ剤を使わないワクモ防除方法の検討		
H26.1.26	スーパー連携大学院大分地域コアフォーラム	藤田 達男 岡崎 雅紀	大豆煮汁の乳用牛飼料への利用方法
H26.2.21	日本獣医師会獣医学術大会	藤田 達男	ウシMHCマーカーを指標とした牛白血病白血病発症抵抗性遺伝子保有黒毛和種種雄牛の造成
H26.3.17・18	第100回日本養豚学会	佐藤 邦雄	凍結精液技術を用いた種豚の造成・維持の実証報告
		秋好 禎一	飼料用米70%配合が肥育前期豚の飼養成績に及ぼす影響

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会	H25. 11. 22	大分県庁新館大会議室	4	100
農林研究指導センター研究紹介	H25. 12. 10	コンパルホール	1	190

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア 畜産後継者養成研修

開催月日	区分	講習会・研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
4月17日～3月17日	畜産後継者	畜産後継者養成研修	部内	1人×337日	

イ 畜産技術者研修

月 日	区分	講習会・研修会等の名称	地域	参加者数	備考(共催、要請機関等)
5月30日	技術者研修	肉用牛改良研修(I)	県内	83	
6月14日	技術者研修	肥育技術研修	県内	22	畜産振興課
7月04日	技術者研修	肥育技術研修	県内	24	畜産振興課
8月27日	技術者研修	おおいた型放牧推進セミナー2013	県内	40	畜産技術室
9月26日	技術者研修	おおいた冠地どりの特徴と飼養管理	大分	14	
10月10日	技術者研修	非アロフェン質黒ボク土の特徴と土壌管理	県外・県内	38	九州沖縄農業研究センター
2月03日	技術者研修	酪農技術研修(課題解決研修)	県内	10	畜産技術室
2月21日	技術者研修	肉用牛改良研修(II)	県内	80	
8月～12月	技術者研修	受精卵移植技術の修得及び向上研修	県内	50	
随時	技術者研修	豚の凍結精液及び人工授精技術出前研修	県内	50	

ウ 受託研修

月 日	区分	講習会・研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
5月20日	受託研修	豚・鶏の採血研修	部内	10	畜産振興課
5月23日	受託研修	新採獣医師繁殖技術研修1部	部内	5	畜産振興課
5月27日	受託研修	新採用普及職員専門技術研修	部内	1	研究普及課
5月30日	受託研修	新採獣医師繁殖技術研修2部	部内	4	畜産振興課
7月18日	受託研修	新採用普及職員専門技術研修	部内	1	研究普及課
11月11日	受託研修	家畜人工授精講習会	部内	14	畜産振興課

エ 視察研修

月日	区分	講習会・研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
4月12日	視察研修	緒方町和牛振興会視察研修	部内	7	緒方町和牛振興会
4月17日	視察研修	種雄牛視察	部内	2	生産者
4月17日	視察研修	農林水産部長視察	部内	3	農林水産企画課
4月18日	視察研修	種雄牛視察	部内	1	生産者
5月15日	視察研修	農林水産委員視察	部内	18	農林水産企画課
5月24日	視察研修	九州大学学生実地見学	部内	23	九州大学
6月13日	視察研修	種雄牛視察	部内	1	生産者
6月19日	視察研修	種雄牛視察	部内	1	生産者
6月19日	視察研修	種雄牛視察	部内	4	生産者
6月21日	視察研修	九州大学学生実地見学	部内	31	九州大学
6月26日	視察研修	直入町畜産女性部「いわ会」種雄牛視察	部内	6	直入町畜産女性部
6月26日	視察研修	大田和牛改良組合視察研修	部内	17	大田和牛改良組合
7月01日	視察研修	清川町和牛振興会視察研修	部内	23	清川町和牛振興会
7月17日	視察研修	由布市肉用牛育種改良組合視察研修	部内	4	由布市肉用牛育種改良組合
7月17日	視察研修	中津下毛肥育部会視察研修	部内	5	中津下毛肥育部会
7月22日	視察研修	竹田市和牛振興会視察研修	部内	11	竹田市和牛振興会
7月24日	視察研修	農水省種雄牛舎視察研修	部内	4	農林水産省
8月02日	視察研修	焼酎粕WCS子牛給与視察	部内	3	生産者
8月05日	視察研修	由布市改良組合視察研修	部内	5	由布市改良組合
8月06日	視察研修	現地視察(風致維持向上計画)	部内	9	竹田市
8月28日	視察研修	JA大分安心院町肉用牛生産部会役員研修	部内	10	JA大分安心院町肉用牛生産部会
9月02日	視察研修	九州大学学生実地見学	部内	18	九州大学
9月02日	視察研修	庄内町肉用牛改良育種組合視察研修	部内	25	庄内町肉用牛改良育種組合
9月04日	視察研修	インターンシップ視察研修	部内	2	生産者
9月10日	視察研修	九重町肉用牛育種改良組合視察研修	部内	6	九重町肉用牛育種改良組合
9月25日	視察研修	玖珠肉用牛育種改良組合視察研修	部内	11	玖珠肉用牛育種改良組合
10月01日	視察研修	和牛肉ブランド化事業等の視察	部内	3	関係機関
10月03日	視察研修	種雄牛視察	部内	2	生産者
10月08日	視察研修	生産者視察(鷺頭、農水省、農大研修生)	部内	3	生産者
10月11日	視察研修	九州大学学生実地見学	部内	34	九州大学
10月12日	視察研修	大分市学校給食会視察研修	部内	25	大分市学校給食会
10月16日	視察研修	畜産後継者養成研修希望者 場内見学	部内	1	生産者
10月16日	視察研修	宮崎県凍結精液視察研修	部内	2	宮崎県
10月23日	視察研修	種雄牛視察	部内	2	生産者
10月29日	視察研修	犬飼町和牛女性部視察研修	部内	11	犬飼町和牛女性部
11月12日	視察研修	種雄牛視察(光星視察)	部内	8	生産者
11月14日	視察研修	飯田畜産青年部視察視察	部内	10	飯田畜産青年部
11月21日	視察研修	豊肥育種組合視察研修	部内	6	豊肥育種組合
11月26日	視察研修	佐伯市肉用牛部会視察研修	部内	14	佐伯市肉用牛部会
11月27日	視察研修	大分県庁交友会施設見学	部内	40	大分県庁交友会
11月28日	視察研修	東部肉用牛育種改良組合視察研修	部内	25	東部肉用牛育種改良組合
11月28日	視察研修	竹田肉用牛女性部連絡協議会視察研修	部内	21	竹田肉用牛女性部連絡協議会
12月04日	視察研修	梨原十頭会視察研修	部内	15	梨原十頭会
12月11日	視察研修	養鶏施設視察	部内	2	生産者
12月17日	視察研修	種雄牛視察	部内	4	生産者
2月03日	視察研修	長崎・西海地域養豚研究会視察	部内	4	長崎・西海地域養豚研究会
2月05日	視察研修	竹田市和牛振興会久住支部視察研修	部内	30	竹田市和牛振興会久住支部
2月24日	視察研修	施設整備に係る肉牛関係現地調査	部内	2	栃木県
2月27日	視察研修	阿蘇地方4Hクラブ視察	部内	10	阿蘇地方4Hクラブ
2月28日	視察研修	豊後大野市家畜人工授精師協会研修会	部内	14	豊後大野市家畜人工授精師協会
3月04日	視察研修	津江女性部視察研修	部内	10	津江女性部
3月06日	視察研修	JAおおいだ安心院町肉用牛生産部会視察研修	部内	15	JAおおいだ安心院町肉用牛生産部会
3月28日	視察研修	宮崎県東臼杵畜連視察研修	部内	6	宮崎県東臼杵畜連

オ ふれあい研修

月日	区分	講習会・研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
7月17日	ふれあい	竹田市立都野中学校職場体験学習	部内	1	都野中学校
8月22日	ふれあい	農林水産部インターンシップ研修	部内	1	農林水産企画課
8月26日	ふれあい	獣医系インターンシップ研修	部内	3	畜産振興課
9月09日	ふれあい	獣医系インターンシップ研修	部内	3	畜産振興課
9月19日	ふれあい	獣医系インターンシップ研修	部内	2	畜産振興課
11月28日	ふれあい	農業大学校現地研修	部内	4	農業大学校

カ 講師派遣

月日	区分	講習会・研修会等の名称	地域	参加者数	備考(共催、要請機関等)
4月02日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
4月05日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
4月10日	講師派遣	中津地域精液譲渡	中津市	5	
4月15日	講師派遣	第19回登記検査員認定講習会	県内	40	
4月16日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
4月18日	講師派遣	東部地域精液譲渡	東部	20	
5月01日	講師派遣	平成25年度第1回課題解決研修(肉用牛担当普及指導員)	県内	20	
5月02日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
5月08日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
5月09日	講師派遣	久住町和牛女性部 通常総会	竹田	40	
5月13日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
5月17日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
5月31日	講師派遣	共励会スキャニング巡回	県内	12	
6月03日	講師派遣	共励会スキャニング巡回	県内	8	
6月04日	講師派遣	共励会スキャニング巡回	県内	12	
6月04日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
6月06日	講師派遣	共励会スキャニング巡回	県内	12	
6月06日	講師派遣	東部地域精液譲渡	東部	20	
6月07日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
6月07日	講師派遣	北部地域精液譲渡	北部	10	
6月13日	講師派遣	中津地域精液譲渡	中津市	5	
6月18日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
6月25日	講師派遣	九管スキャニング巡回	県内	12	
6月26日	講師派遣	九管スキャニング巡回	県内	14	
6月28日	講師派遣	九管スキャニング巡回	県内	16	
6月28日	講師派遣	「豊のしゃも」総会 飼養管理研修	県内	23	
7月02日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
7月04日	講師派遣	大分市和牛改良組合研修会	大分	30	
7月05日	講師派遣	九管スキャニング巡回	県内	16	
7月10日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
7月16日	講師派遣	竹田市畜産共進会直入地域	竹田	50	
7月17日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
7月18日	講師派遣	竹田市畜産共進会竹田地域	竹田	50	
7月18日	講師派遣	直入肥育センタースキャニング	県内	6	
7月22日	講師派遣	第8回杵築市畜産品評会枝肉の部	杵築	50	
7月23日	講師派遣	竹田市畜産共進会久住地域	竹田	50	
7月24日	講師派遣	竹田市家畜人工授精師協会総会	竹田	10	
7月26日	講師派遣	家畜人工授精師協会第57回定例総会	県内	53	
7月27日	講師派遣	玖珠九重農協主催畜産品評会	玖珠九重	100	
7月30日	講師派遣	第8回杵築市畜産品評会種畜の部	杵築	120	
8月02日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
8月05日	講師派遣	東部地域精液譲渡	東部	20	
8月06日	講師派遣	第6回国東市畜産共進会	国東	100	
8月06日	講師派遣	「おおいた冠地どり」総会	県内	14	
8月06日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
8月06日	講師派遣	北部地域精液譲渡	北部	10	
8月12日	講師派遣	中津地域精液譲渡	中津市	5	
8月16日	講師派遣	種雄牛紹介(豊肥市場生産者研修会)	県内	50	

カ 講師派遣(つづき)

月日	区分	講習会・研修会等の名称	地域	参加者数	備考(共催、要請機関等)
8月17日	講師派遣	種雄牛紹介(玖珠市場生産者研修会)	県内	50	
8月21日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
8月23日	講師派遣	県共等スキヤニング巡回	県内	12	
8月23日	講師派遣	「おおいた烏骨鶏」総会 6次産業化講習	県内	20	
8月27日	講師派遣	県共等スキヤニング巡回	県内	10	
8月28日	講師派遣	第48回東部地域畜産共進会	東部	100	
8月28日	講師派遣	県共等スキヤニング巡回	県内	10	
8月30日	講師派遣	第7回竹田市畜産共進会	竹田	100	
9月03日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
9月04日	講師派遣	第47回日田畜産品評会	日田	100	
9月06日	講師派遣	第110回玖珠郡畜産品評会	玖珠	100	
9月06日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
9月09日	講師派遣	第8回豊後大野市畜産共進会	豊後大野	100	
9月10日	講師派遣	繁殖能力の向上に向けて	由布	20	
9月13日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
9月18日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
9月27日	講師派遣	第48回大分地方畜産共進会	大分	100	
10月02日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
10月03日	講師派遣	東部地域精液譲渡	東部	20	
10月04日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
10月04日	講師派遣	北部地域精液譲渡	北部	10	
10月05日	講師派遣	第74回大分県畜産共進会 肉牛の部	県内	100	
10月17日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
10月26日	講師派遣	第75回大分県畜産共進会 肉用牛の部	県内	150	
11月03日	講師派遣	第76回大分県畜産共進会 乳用牛の部	県内	150	
11月05日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
11月08日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
11月13日	講師派遣	共励会スキヤニング巡回	県内	15	
11月13日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
11月14日	講師派遣	共励会スキヤニング巡回	県内	15	
11月15日	講師派遣	肥育体系一本化研修	県内	15	
11月18日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
12月03日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
12月04日	講師派遣	東部地域精液譲渡	東部	20	
12月06日	講師派遣	「ぶんご合鴨」種禽選抜、飼養管理講習	豊後高田	6	
12月06日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
12月06日	講師派遣	北部地域精液譲渡	北部	10	
12月10日	講師派遣	県民を対象とした研究紹介	県内	130	
12月10日	講師派遣	「おおいた烏骨鶏」生産者役員会、肉活用法	日出	6	
12月12日	講師派遣	大分県自給飼料増産シンポジウム2013	県内	80	
12月13日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
12月18日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
12月20日	講師派遣	「おおいた冠地どり」去勢試食、肉質改善	大分	22	
12月26日	講師派遣	第8回「はやしセミナー」	県内	25	
1月08日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
1月10日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
1月16日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
1月20日	講師派遣	大学間連携共同研究会	県内	30	
1月21日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
1月31日	講師派遣	第9回「はやしセミナー」	県内	20	
2月04日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
2月06日	講師派遣	東部地域精液譲渡	東部	20	
2月07日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
2月07日	講師派遣	北部地域精液譲渡	北部	10	
2月18日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
3月04日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
3月06日	講師派遣	肥育飼料一本化体系技術研修	東部	10	
3月07日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
3月14日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
3月18日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ

氏名	所属	研修内容	期間
小野 恵介	日田市	後継者養成研修	H25. 4. 17～H26. 3. 19
生産者1名	日田市	後継者養成研修	H25. 4. 17～H26. 3. 19

②短期研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
普及指導員	2	2
新任獣医師	3	19
学生	10	120
海外研修者	0	0
その他	0	0
計	15	141

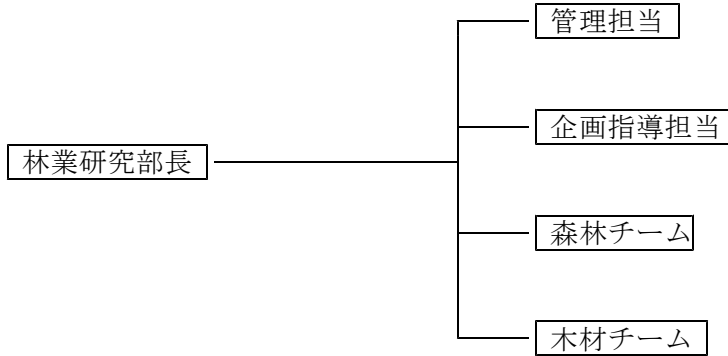
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
肉用牛の肥育飼料一本化体系（エクセレント8体系）技術の確立	肉用牛の肥育飼料一本化体系（エクセレント体系）技術を確立し、肥育経営の経済性の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・枝肉重量（去勢）は488.6kgと目標を上回った。 ・A率（去勢）は69%と目標を下回った。 ・出荷した牛の多くが呼吸器疾病を起こして発育が一時停滞していたため、このことがなければ目標は達成されたものと考えられる。
酪農家における夏期受胎率向上のための体外受精卵移植技術の活用	受精卵移植技術の活用により夏期受胎率の改善を図り、春分娩増加による需要期生乳生産量の確保を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・2戸の酪農家において夏期の受胎率改善を目的として8～10月に計87個（乳牛雌体外受精卵44個、肉処理場由来体外受精卵43個）の受精卵移植を行った。 ・受胎率はS牧場12.5%(2/16)、E牧場14.1%(10/71)であり、前年同時期の人工授精による経産牛の受胎率（7%）に比べれば向上したものの目標の20%には届かなかった。
焼酎粕とイネ発酵粗飼料を活用した肉用牛子牛育成技術の開発	麦焼酎粕濃縮液とイネ発酵粗飼料を主体とした新規子牛育成用飼料利用による低コストな肉用牛子牛育成技術を開発するため、農家での給与実証試験を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・市場出荷した現地給与試験牛のDGは去勢1.04、雌0.92で、目標を上回った。 ・現地の農家での給与において、子牛の増体や体系が非常に良い。 ・農家や関係機関からは継続したい要望が上がっている。
耕作放棄地解消のためのレンタカウ等の現地支援	耕作放棄地の解消及び「おおいた型放牧」の普及を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地解消のための2カ所にそれぞれ2頭をレンタカウ。
豚凍結精液技術の現地実証	大分県で開発した豚凍結精液の技術普及	<ul style="list-style-type: none"> ・凍結精液譲渡本数 679セット ・受託製造実証本数474セット ・豚人工授精及び凍結精液セミナー開催 ・現地指導や種豚パンフレット作成

II-6 林業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部長			1					1	
管理担当		2		1				3	
企画指導担当			3					3	広域普及指導員 1名
森林チーム			4			2		6	
木材チーム			7					7	デザイン担当 1名(兼務)
計		2	15	1		2		20	

(3) 業務

- ① 育種・育林技術の開発に関する試験研究
- ② 環境を守る森林整備に関する試験研究
- ③ 県産材の需要拡大に関する試験研究

2. 平成25年試験研究課題

試験研究課題	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1中課題 1)小課題 (1)試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、儲かる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
1) 大分方式乾燥法を基礎とした県産材の効率的乾燥システムの確立				
(1) 県産スギ材の簡易乾燥システムの開発	木材チーム		H24～26	県単
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1) 大径スギ材の有効活用技術の開発				
(1)「木材利用促進法」に対応した県産スギ大断面構造材に関する研究	木材チーム	大分大学	H24～26	県単
2) 県産スギ材の新用途開発				
(1) 張りぐるみ椅子(ソファ)への県産材利用に関する研究	木材チーム		H24～25	県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
1) 優良品種による森林造成				
(1) 早生有用広葉樹等を活用した短伐期林業に関する研究	森林チーム		H24～26	県単
(2) 新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発	森林チーム	森総研 九州大学外	H24～26	受託 (農水省)
2) 森林施業技術の高度化・低コスト化				
(1) 再造林放棄地の解消に向けた省力的な造林技術に関する研究	森林チーム		H21～25	県単
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
1) 森林病虫獣害対策				
(1) クヌギ萌芽更新におけるシカ被害防除技術に関する研究	森林チーム		H23～25	県単
5 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
1) 未利用森林資源の新用途開発				
(1) 県産クヌギ材の床材利用技術の開発	木材チーム		H24～25	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
2) 森林吸収源対策				
(1) スギ・ヒノキ花粉発生源調査事業	森林チーム		H22	受託 (全林協)
3) 木材産業連携支援				
(1) 県産製材品の強度性能に関する研究	木材チーム		H24～26	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成24年度林業試験場年報(第55号)	H25.5	70	300
林試だより(第75号)	H25.10	8	1,300
簡易ネットを使ってクヌギ萌芽をシカ食害から守る！！	H26.2	4	1,000

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
豆田俊治	スギ平角材の高周波蒸気複合乾燥技術の開発	公立林業試験研究機関 研究成果選集	No.11 (2014)	65-66
北岡和彦	クヌギ萌芽更新におけるシカ被害防除技術に関する研究	九州森林研究	投稿中 No.66 (2014)	—
古曳 博也	大径クヌギ材の利用技術の開発 —縦継部材及び幅はぎ部材の強度性能—	木材学会九州支部大会講演集	第20回	27-28
河津 渉	大分県における公共建築物等に関する調査結果について	木材学会九州支部大会講演集	第20回	71-72
大分大学:田中 圭 林業研究部:山本 幸雄	枠組壁工法建築物への大分県産材利用について (その1)2P枠組壁工法耐力壁の水平せん断性能	木材学会九州支部大会講演集	第20回	65-66
【委託研究】 大分大学:原 麻里子 (林業研究部:山本 幸雄)	国産材を用いた枠組壁工法に関する研究(その1)2P 耐力壁の水平せん断実験	日本建築学会九州支部研究発表 会研究報告集		9169
【共同研究】 大分大学:朴 志泳 (林業研究部:河津 渉)	スギ製材を用いた組立梁の開発(その2)束材—弦材 仕口接合部の引っ張り実験及び実大組立梁の概要	日本建築学会九州支部研究発表 会研究報告集		9140
【共同研究】 大分大学:田中 圭 (林業研究部:河津 渉)	スギ製材を用いた組立梁の開発(その3)実大組立梁 の曲げ実験	日本建築学会九州支部研究発表 会研究報告集		9142

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H25.9.3	日本木材学会九州支部大会	古曳 博也	大径クヌギ材の利用技術の開発 —縦継部材及び幅はぎ部材の強度性能—
H25.10.26	九州森林学会研究発表会	佐藤嘉彦	マルチキャビティコンテナを活用したスギの品 種別及び用土別の発根試験
H25.10.26	九州森林学会研究発表会	北岡和彦	クヌギ萌芽更新におけるシカ被害防除技術に 関する研究(Ⅱ)
H26.3.2	日本建築学会九州支部研究 発表会	【委託研究】 大分大学:原 麻里子 (林業研究部:山本 幸雄)	国産材を用いた枠組壁工法に関する研究(その 1)2P耐力壁の水平せん断実験
H26.3.2	日本建築学会九州支部研究 発表会	【共同研究】 大分大学:朴 志泳 (林業研究部:河津 渉)	スギ製材を用いた組立梁の開発(その2)束材 —弦材仕口接合部の引っ張り実験及び実大組 立梁の概要
H26.3.2	日本建築学会九州支部研究 発表会	【共同研究】 大分大学:田中 圭 (林業研究部:河津 渉)	スギ製材を用いた組立梁の開発(その3)実大 組立梁の曲げ実験

※発表者名欄の()内は共同研究等の共同研究者

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成25年度 農林水産研究指導センター 林業研究部研究発表会	H26.2.25	林業研究部	口頭発表:4課題 展示発表:3課題	66
平成25年度 農林水産研究指導センター 研究紹介発表会	H25.12.10	大分市 コンパルホール	口頭発表:1課題	190

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.5.27	林業普及技術等習得研修	大分県庁	6	大分県
H25.5.30	林業全般基礎研修	大分県庁	20	大分県
H25.6.28	優良材生産技術研修会	林業研修所	5	(公財)森林ネットおおいた
H25.6.29	平成25年度 九州ブロック建築士研究集会 「建築士の集い大分大会in日田」	林業研究部	80	日本建築士会連合会 九州ブロック会
H25.8.2	林業普及指導員研修会	大分県庁	24	大分県
H25.10.18	林業種苗生産事業者講習会	大分県庁	7	大分県
H25.10.24	企業技術研修会(3D-CAD/プリンター)	林業研究部	48	
H25.10.25	日田高等学校スーパーサイエンス	林業研究部	35	日田高等学校
H25.10.16	フォレストワーカー集合研修	林業研修所	15	(公財)森林ネットおおいた
H25.10.26	山西フェア講演会	名古屋市	50	(株)山西
H25.11.11	フォレストワーカー集合研修	林業研修所	15	(公財)森林ネットおおいた
H25.11.13	日田高等学校スーパーサイエンス	林業研究部	36	日田高等学校
H26.1.29	抵抗性クロマツ挿し木研修会	林業研究部	15	大分県樹苗農業協同組合
H25.9.12～ H25.11.29 (9日間)	試験研究機関における実践研修	林業研究部	16	林業研究部
H25.4.26 ～ H25.5.17	農業大学校講義(3回)	農業大学校	41	農業大学校

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	3	5
団体等職員	20	210
普及指導員	6	29
学生	2	77
海外研修者	0	0
その他	6	120
計	37	441

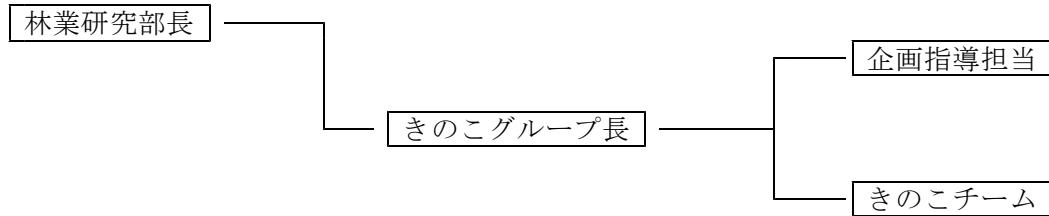
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
コンテナ苗の普及・推進	低コスト造林を推進するため、DNA分析に基づくスギ奨励品種コンテナ苗の導入を推進する。	県西部・南部において、樹苗生産者、森林組合及び市町村を対象としたコンテナ苗導入の検討会・研修会を14回実施した。
大分方式による平角乾燥材生産技術の開発	県産スギ横架材の生産拡大を図るため、高周波乾燥技術の現地移転を促進する。	高周波乾燥機を所有している3社に乾燥技術の移転を図り、当該3社が大分方式平角乾燥材生産工場に認定された。

II-7 きのごグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長			1					1	広域普及指導員 2名
企画指導担当			3					3	
きのごチーム			5			1		6	
計			9			1		10	

(3) 業務

- ① シイタケを始めとするきのご類の栽培技術の改善・開発
- ② 栽培きのご類の育種技術による品種の改良・開発
- ③ 温暖化に対応した乾シイタケ安定生産技術の開発
- ④ クヌギチップを利用した菌床シイタケ及びキクラゲ栽培技術の研究
- ⑤ 病害虫等の防除技術の研究・普及
- ⑥ きのご類の分類・同定
- ⑦ 有用きのご類の遺伝子収集・保存による育種素材の確保
- ⑧ 研究成果の普及及び栽培技術指導
- ⑨ 新規参入者の研修・技術指導
- ⑩ 栽培技術情報の収集・管理と情報発信

2. 平成25年度試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、儲かる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
(1) 有用きのこ類の品種改良				
1) 原木乾シイタケ優良品種の開発	きのこチーム		H21～25	県単
2) 原木生シイタケ優良品種の開発	きのこチーム		H21～25	県単
3) ナメコの優良品種の開発	きのこチーム		H21～25	県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
(1) シイタケの原木栽培技術の確立				
1) 原木乾シイタケの冬期発生操作技術に関する研究	きのこチーム		H25～27	県単
2) 移動式散水施設を利用したほだ木育成技術の開発	きのこチーム		H25～27	県単
3) 原木生シイタケ栽培における冬期の生産量向上技術に関する研究	きのこチーム		H22～25	県単
4) 乾シイタケ栽培における効率的発生操作技術の開発 － 子実体発生に及ぼす低温刺激の効果 －	きのこチーム		H23～25	県単
(2) シイタケの菌床栽培技術の確立				
1) クヌギチップを利用した菌床シイタケ発生操作技術の確立	きのこチーム		H24～26	県単
4 きのこと類の病虫害防除技術の確立				
(1) きのこと類栽培における害虫類の生態解明と防除技術の開発 － シイタケオオヒロズコガ類の防除法の確立 －	きのこチーム			
5 地域資源の有効活用と省エネルギーの技術開発				
(1) クヌギチップを利用した菌床キクラゲ栽培技術の確立	きのこチーム		H25～27	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
1 育種素材の収集保存				
(1) 有用きのこ類の遺伝子収集及び保存	きのこチーム		H元～	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
林業研究部きのこグループ業務年報(第24号)	H25年12月	66	500
情報誌「くらんぷ」第44号	H26年1月	7	2,500

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
村上 康明	菌床栽培エノキタケを食害するイシハラナミキノコバエの防除法	日本きのこ学会誌	11	65-69
甲斐 充・石井 秀之	原木乾シイタケの冬期発生におけるビニールシート被覆の開閉効果について	九州森林研究	投稿中	
甲斐 充	原木乾シイタケの冬期発生におけるビニール被覆の開閉効果について	菌草	60(2)	2-7
有馬 忍	大分県で発生したシイタケ腐敗病	きのこ研だより	36	29-36

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H25.6.8	日本菌学会第57回大会	村上康明・佐々木廣海・保坂健太郎	大分県で発見された日本新産種 <i>Mattirolomyces terfezioides</i> について
H25.10.26	第69回九州森林学会	有馬 忍・根岸 寛光・篠原 弘亮	菌床シイタケを用いたシイタケ腐敗病の病原性検定法
H25.10.26	第69回九州森林学会	甲斐 充・石井 秀之	原木乾シイタケの冬期発生におけるビニールシート被覆の開閉効果について

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成25年度きのこグループ研究発表会	H26.2.7	きのこグループ	特別講演 1 口頭発表 3 ポスター発表 4	100

口頭発表のうち1課題は林業研究部

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア. 林業普及指導員研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.11.18	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ1)	きのこグループ	3	研究普及課
H25.12.9	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ2)	きのこグループ	3	研究普及課
H25.12.10	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ3)	きのこグループ・大野町	3	研究普及課
H26.3.13	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ4)	きのこグループ	3	研究普及課
H26.3.14	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ5)	きのこグループ	3	研究普及課
H25.11.27	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ1)	きのこグループ	2	研究普及課
H25.11.28	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ2)	きのこグループ	2	研究普及課
H25.11.29	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ3)	きのこグループ	2	研究普及課
H26.2.27	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ4)	きのこグループ	2	研究普及課
H26.3.6	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ5)	きのこグループ	2	研究普及課

イ. 林業普及技術習得研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.5.30	林業全般基礎研修	県庁	18	研究普及課

ウ. 大分しいたけ源兵衛塾(第6期)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.7.24	大分しいたけ源兵衛塾第1回研修会	きのこグループ	26	ビニール被覆
H25.9.20	大分しいたけ源兵衛塾第2回研修会	きのこグループ	30	
H25.10.31	大分しいたけ源兵衛塾第3回研修会	きのこグループ	14	
H25.12.5	大分しいたけ源兵衛塾第4回研修会	きのこグループ	34	省エネ乾燥
H26.2.7	大分しいたけ源兵衛塾第5回研修会	きのこグループ	40	

エ. 新規参入者研修(栽培体験コース)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.9.18	東部局新規参入者ステップアップ研修会	国東市	22	
H25.9.1	第1回原木しいたけ栽培新規参入者研修会	きのこグループ	38	
H25.10.20	第2回原木しいたけ栽培新規参入者研修会	きのこグループ	33	
H26.3.2	第3回原木しいたけ栽培新規参入者研修会	きのこグループ	26	
H25.3.16	第4回原木しいたけ栽培新規参入者研修会	きのこグループ	24	
H25.11.26	第1回北部局新規参入者ステップアップ研修会	宇佐市	20	
H25.6.20	平成25年度第1回しいたけセミナー	きのこグループ	12	豊後大野市と共催
H25.6.27	平成25年度第2回しいたけセミナー	きのこグループ	12	〃
H25.7.18	平成25年度第3回しいたけセミナー	きのこグループ	11	〃
H25.7.25	平成25年度第4回しいたけセミナー	きのこグループ	12	〃
H25.8.1	平成25年度第5回しいたけセミナー	きのこグループ	12	〃
H25.8.22	平成25年度第6回しいたけセミナー	きのこグループ	12	〃

オ. きのこと栽培研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.4.23	第7回宇佐市乾椎茸品評会表彰式及び研修会	宇佐市安心院	37	ビニール被覆
H25.5.2	H25豊後高田市椎茸生産組合通常総会及び品評会表彰式	豊後高田市	30	ビニール被覆
H25.6.21	第1回しいたけ源基塾研修会	きのこグループ	25	
H25.10.25	第2回しいたけ源基塾研修会	きのこグループ	18	
H25.12.25	第3回しいたけ源基塾研修会	三重町	21	
H26.2.7	第4回しいたけ源基塾研修会	きのこグループ	22	
H25.7.25	中津市原木生しいたけ研究会研修会・活着調査	中津市耶馬溪	12	ビニール被覆
H25.8.23	中津市椎茸振興協議会総会及び研修会	中津市耶馬溪	40	ビニール被覆
H25.9.10	ほだ木活着調査及び研修会	玖珠町・九重町	14	
H25.9.18	OSK県南支部しいたけの安定生産と安全伐採研修会	きのこグループ他	110	ビニール被覆・省エネ乾燥
H25.9.20	椎茸農協久大支部研修会	九重町	31	ビニール被覆
H25.9.20	JA大分豊後大野事業部椎茸部会視察研修	きのこグループ	15	ビニール被覆
H25.9.25	椎茸農協中央支部研修会	きのこグループ	39	ビニール被覆
H25.10.2	竹田原木キクラゲ本舗栽培研修会	竹田市	20	
H25.10.29	椎茸農協竹田支部研修会	竹田市	120	ビニール被覆・省エネ乾燥
H25.11.5	中津市原木生しいたけ研究会研修会	中津市耶馬溪	11	
H25.12.24	北部林研グループ省エネ乾燥研修会	北部局管内	7	省エネ乾燥
H26.2.23	H25アグリしいたけ研修会	犬飼町	8	

カ. 人材育成研修等

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.11.14	食の伝道師研修会	きのこグループ	11	
H25.10.8	農業大学校シイタケ栽培講義	農業大学校	11	
H25.10.22	農業大学校シイタケ栽培講義	農業大学校	11	
H25.12.9	高温性育種事業現地研修会	きのこグループ	17	高温性育種事業コンソーシアム
H25.12.10	高温性育種事業現地研修会	きのこグループ	16	高温性育種事業コンソーシアム
H25.12.11	高温性育種事業現地研修会	きのこグループ	15	高温性育種事業コンソーシアム
H26.1.16	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	26	農業大学校
H26.1.21	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	18	農業大学校
H26.2.5	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	25	農業大学校
H26.2.12	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	27	農業大学校
H26.2.19	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	10	農業大学校
H26.2.26	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	22	農業大学校
H26.3.5	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	25	農業大学校
H25.11.15	高大連携「地域と農業」	三重総合高校	17	
H25.10.21	OSK緊急雇用シイタケ栽培技術習得サポート研修会1	きのこグループ	6	
H25.11.12	OSK緊急雇用シイタケ栽培技術習得サポート研修会2	きのこグループ	5	
H26.3.4	椎茸生産体験(駒うち・収穫)学習・三重東小4年生	三重町	60	NPO主催

キ. 市場・流通関係

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.5.14	H25生しいたけ生産流通懇談会役員会	県庁	5	
H25.5.30	H25生しいたけ生産流通懇談会総会	玖珠町	16	
H25.10.15	生しいたけ生産流通懇談会意見交換会	大分市	7	

ク. 品評会

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.4.22	宇佐市乾椎茸品評会審査会	宇佐市安心院	12	
H25.4.22	第7回東部地区乾椎茸品評会審査会	国東市安岐	18	
H25.4.22	佐伯市乾椎茸品評会審査会	豊後大野市三重町	20	
H25.4.23	竹田市乾椎茸品評会審査会	竹田市	25	
H25.4.23	日本一のナバ山師になろう会選別会	豊後大野市三重町	28	
H25.4.24	豊後大野市椎茸品評会審査会	豊後大野市清川	26	
H25.4.25	由布市乾しいたけ品評会及び審査会	由布市庄内	35	
H25.4.30	豊後高田市椎茸品評会審査会	豊後高田市	13	
H25.5.8	第55回大分県乾椎茸品評会(箱物)審査会	椎茸農協本部	24	
H25.5.16	第55回大分県乾椎茸品評会(袋物)審査会	椎茸農協本部	38	
H25.5.17	第55回大分県乾椎茸品評会(袋物)審査会	椎茸農協本部	35	
H25.6.4	H25第2回JAおおいた乾椎茸品評会審査会	大分市	16	
H25.11.18	H25第25回大分生しいたけ品評会審査会	大分市	26	
H26.1.29	第6回JAおおいた日田生椎茸部会天瀬支部生しいたけ品評会	日田市	19	

ケ. 一般消費者関係

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.7.13	H25生しいたけ夏期消費宣伝活動	大分市	519	
H25.10.15	生しいたけ旬入り宣言式	大分市	100	
H25.10.26	大分県農林水産祭	別府市	320	
H25.10.27	大分県農林水産祭	別府市	430	
H25.12.10	農林水産研究センター研究紹介	大分市	150	

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	25	26
団体等職員	0	0
普及指導員	0	0
学生	0	0
児童・生徒	0	0
海外からの視察者	6	72
その他	37	94
計	68	192

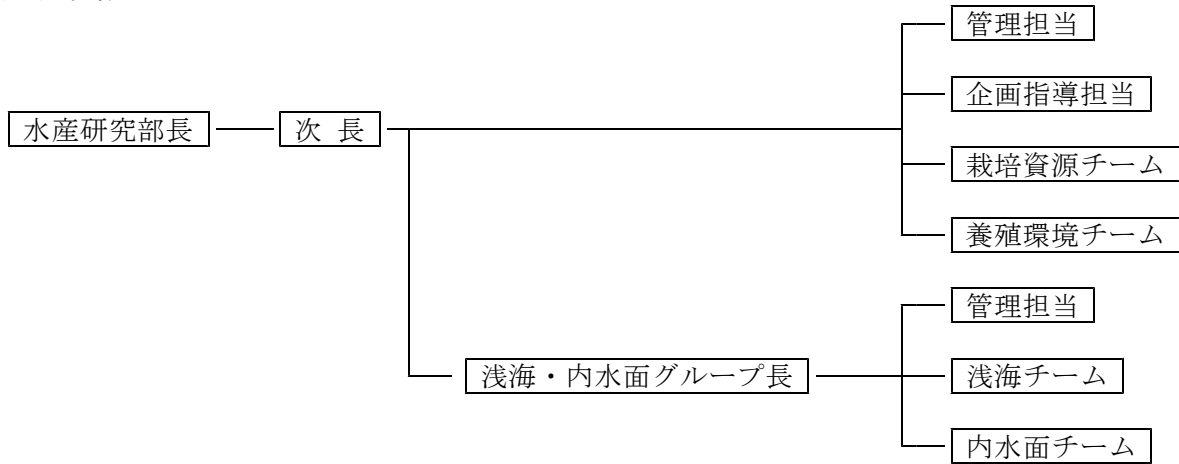
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
原木乾シイタケの冬期発生技術の確立	中温性品種の冬期発生率を向上させることにより、品質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会や現地説明会などを開催し、技術の普及定着を図る。 ・広域普及及び地域普及指導との連携により生産者の取り組みについて指導を強化する。

II-8 水産研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
水産研究部	部長		1					1	海事職員7名
	次長	1						1	
	管理担当	3	7				1	11	
	企画指導担当		2					2	
	栽培資源チーム		7					7	
	養殖環境チーム		7					7	
	小計	4	24				1	29	
浅海・内水面グループ	グループ長		1					1	
	管理担当	1					1	2	
	浅海チーム		7	1				8	
	内水面チーム		3					3	
	小計	1	11	1			1	14	
合計		5	35	1			2	43	

(3) 業務

- ① 漁業の調査研究に関すること
- ② 漁業の生産及び技術指導に関すること
- ③ 水産動植物の増養殖に関すること
- ④ 漁業技術の改良普及に関すること
- ⑤ 水産動物の防疫等指導に関すること
- ⑥ 水産物の利用加工等指導に関すること
- ⑦ 漁場環境保全・赤潮防止技術に関すること
- ⑧ その他水産業の技術指導に関すること

2. 平成25年度試験研究課題 (1/3)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1)小課題 (1)試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 1 ブランド化のための技術開発				
1) 資源生態及び資源評価ならびに資源回復に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 資源に関する基礎調査	栽培資源チーム	(独)水産総合研究センター、関係県	H24～26	委託
(2) 新漁業管理推進総合対策事業(TAC・TAE)	栽培資源チーム		H24～26	県単
(3) 豊予海峡周辺におけるマアジ・マサバの資源生態に関する研究	栽培資源チーム		H24～26	県単
(4) 磯根資源調査	栽培資源チーム		H24～26	国庫補助
(5) タチウオ資源回復推進に関する研究	栽培資源チーム	(独)水産総合研究センター	H21～25	国庫補助
1) 資源生態及び資源評価ならびに資源回復に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 資源に関する基礎調査	浅海チーム	(独)水産総合研究センター	H24～26	委託
(2) 地域重要魚介類の資源動向及び回復施策に関する研究	浅海チーム	(独)水産総合研究センター	H16～25	県単
(3) 生態系ネットシステムと景観の再生によるカレイ類の資源回復・生態系修復技術の開発	浅海チーム	(独)水産総合研究センター、山口、福岡、愛媛県	H25～27	委託
(4) 豊前海におけるアサリ資源回復に関する調査研究	浅海チーム		H16～25	県単
(5) ネットワークの再生によるアサリ資源回復・干潟生態系修復技術の開発	浅海チーム	(独)水産総合研究センター、愛媛、岡山県	H25～29	委託
2) 栽培漁業の推進に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 栽培対象魚種の放流効果調査	浅海チーム		H20～25	県単 委託
3) 新規養殖及び栽培対象魚種導入のための種苗生産に関する技術開発 (水産研究部)				
(1) ヒラマサ種苗量産技術開発	栽培資源チーム		H25～H27	県単
3) 新規養殖及び栽培対象魚種導入のための種苗生産に関する技術開発 (浅海・内水面グループ)				
(1) 放流対象魚介類の(ナマコ)の種苗量産技術の開発	浅海チーム		H23～25	県単
4) 海水養殖技術の開発・普及				
(1) 健全・高品質な養殖魚生産のための給餌方法の改良 (高品質な養殖カワハギの生産技術開発)	養殖環境チーム	栽培資源チーム	H24～H26	県単
5) 育種による優良品質の作出				
(1) ヒラメの高水温耐性品種の作出(Ⅱ)	栽培資源チーム	養殖環境チーム	H24～H26	県単
6) 二枚貝をはじめとする魚介類の養殖技術の開発・普及				
(1) クルマエビ養殖場におけるアサリ養殖導入試験	浅海チーム		H24～H26	県単
(2) イワガキ人工種苗生産の技術移転	浅海チーム	振興局	H23～H25	県単
(3) イタボガキ人工種苗生産の技術移転	浅海チーム	振興局	H23～H25	県単
7) 有用藻類の増養殖技術開発				
(1) 養殖ヒジキの品質向上と養殖用種苗供給技術の確立	浅海チーム		H24～H26	県単
(2) ヒジキ資源管理手法の開発	浅海チーム		H23～H25	県単
(3) ノリの病害対策と情報提供	浅海チーム		長期	県単

2. 平成25年度試験研究課題 (2/3)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1)小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
8) 内水面養魚魚種の種苗生産・養殖技術の開発・普及	内水面 チーム		H24～H26	県単
(1) 屋内高密度ドジョウ養殖技術の高度化	内水面 チーム		H25～	県単
9) 内水面重要資源の持続的利用のための研究	内水面 チーム		H25～26	委託
(1) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査(アユ資源)	内水面 チーム	(独)水産総合研究 センター、関係県		
(2) 鰻生息状況等緊急調査事業	内水面 チーム			
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1) 病害及び防疫対策に関する研究				
(1) 海産魚介類の疾病診断と養殖衛生管理指導	養殖環境 チーム	(独)水産総合研究 センター	H12～	国庫補助 委託
(2) 先端技術を利用した利用した養殖魚の病害防除法の開発	養殖環境 チーム	(独)水産総合研究 センター 九州大学 東京海洋大学	H23～H25	県単 委託
(3) ヒラメ食中毒原因寄生虫対策	養殖環境 チーム	(独)水産総合研究 センター、東京大 学、愛媛県	H25～H27	県単 委託
(4) 魚病診断と対策指導(内水面)	内水面チーム	養殖環境 チーム	H12～	国庫補助
2) 養魚飼料、餌料の品質評価及び改良に関する研究				
(1) 健全・高品質な養魚生産のための給餌手法の改良 (病気に強い低魚粉飼料の開発研究)	養殖環境 チーム	栽培資源 チーム	H24～H26	県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
1) 漁海況予報に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 資源環境に関するデータの収集、情報の提供	栽培資源 チーム	(独)水産総合研究 センター	長期	県単 委託
1) 漁海況予報に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 資源環境に関するデータの収集、情報の提供	浅海チーム	(独)水産総合研究 センター	長期	県単 委託
2) 有害プランクトンの生態及び赤潮・貝毒被害防除技術に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 (赤潮モニタリング調査)	養殖環境 チーム	(独)水産総合研究 センター、山口県、 福岡県等、浅海 チーム	H25～H29	委託
(2) 赤潮に強い養殖生産に向けた支援技術開発	養殖環境 チーム	佐伯市、振興局	H24～H26	県単
(3) 現場ミクロゾムを用いたカリニア等有害赤潮鞭毛藻の動態と環境条件との 関係の解明	養殖環境 チーム	(独)水産総合研究 センター	H25～H29	委託
(4) 中層定位時(初期発生時)における有害赤潮鞭毛藻の物理的駆除	養殖環境 チーム	(独)水産総合研究 センター	H25～H29	委託
(5) 有害プランクトンによる貝類への影響評価	養殖環境 チーム	(独)水産総合研究 センター、愛媛大、 広島、山口、愛媛県	H25～H29	委託
2) 有害プランクトンの生態及び赤潮・貝毒被害防除技術に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 (赤潮モニタリング調査)	浅海チーム	(独)水産総合研究 センター、山口県、 福岡県等、養殖環 境チーム	H25～H29	委託

2. 平成25年度試験研究課題 (3/3)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1)小課題 (1)試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
3) 養殖漁場の環境保全に関する調査研究・指導				
(1) 養殖漁場の適正利用推進調査	養殖環境 チーム		H25～	県単
4) 漁場造成技術開発 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 磯焼け対策に関する技術開発	栽培資源 チーム		H24～	県単
(2) 魚礁効果調査	栽培資源 チーム		H25	県単
4) 漁場造成技術開発 (浅海内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 魚礁効果調査、増殖場効果調査	浅海チーム		H23～	県単
5 地域資源の活用と省エネルギーの開発技術				
1) 漁海況情報の迅速な提供				
(1) 沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発	栽培資源 チーム	独) 水産総合研究セ ンター、宮崎県他	H24～H25	県単 委託
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
1) 漁獲統計資料の整備	栽培資源 チーム		長期	県単
2) 疾病診断と養殖衛生管理指導				
(1) 医薬品等の適正使用指導	養殖環境 チーム 内水面 チーム		長期	県単
(2) 養殖場の調査・監視	養殖環境 チーム 内水面 チーム		長期	県単
3) 種苗生産供給体制の確立と支援				
(1) 漁業公社への技術指導、技術支援	栽培資源 チーム		長期	県単
4) 漁村グループを対象とした加工指導	養殖環境チー ム	各振興局	長期	県単
5) 漁場環境調査				
(1) 漁場環境調査(浅海定線調査、漁場環境保全調査等)	養殖環境 チーム	環境保全課	長期	国庫補助
(2) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査	内水面 チーム		H25～	県単
6) 栽培漁業展開のための技術指導				
(1) 放流方法等の指導	栽培資源 チーム 浅海チーム		長期	県単
7) 有害生物の駆除対策指導				
(1) ブラックバス等の外来魚駆除技術の普及・指導	内水面 チーム		長期	県単
(2) カワウによる食害被害軽減技術の普及・指導	内水面 チーム		長期	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
大分県農林水産研究指導センター研究報告(水産研究部編)第3号	H25.5.31	56	240
おおいたアクア・ニュースNo.37	H25.7.17	15	350
平成24年度大分県農林水産研究指導センター水産研究部事業報告	H25.10.30	336	HPで公開
おおいたアクア・ニュースNo.38	H26.1.22	14	350

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
宮村和良、石坂丞二	西部瀬戸内海におけるFlowCAMを用いた現場赤潮監視	日本プランクトン学会報	61(1)	41-44
古下 学・福田 翼・ <u>福田 稔</u> ・山下 亜純・柳 宗悦・前野幸二・田中真二・杉原志貴・安部昌明・長野泰三・芝 恒男	2003～2009年にブリ類から分離された類結節症原因菌 Photobacterium damsela subsp. piscicida の薬剤感受性および RAPD解析による分類	水産増殖	61(2)	163-169
大西貴弘・古沢博子・佐古 浩・乙竹 充・ <u>福田 稔</u> ・吉成知也・山崎 朗子・鎌田洋一・小西良子	クドア食中毒および Kudoa septempunctata の季節による特徴	日本食品微生物学会雑誌	30(2)	125-131
山下亜純・高木修作・和田新平・倉田 修・ <u>福田 稔</u> ・平江多績・中西健二・黒原健朗	腎腫大と脾腫を特徴とする養殖カンパチ稚魚の大量死に関する疫学的特徴	魚病研究	49(1)	35-38
福田 稔	ヒラメの魚病対策 第2回 外部寄生体の発見と処置	養殖ビジネス	50(5)	24-26
福田 稔	ヒラメの魚病対策 第3回 感染症の予防と被害の軽減策	養殖ビジネス	50(6)	16-19
福田 稔	ヒラメの魚病対策 第4回 クドア食中毒防止のための養殖現場の対応	養殖ビジネス	50(7)	20-22
福田 稔	ヒラメの魚病対策 第5回 ジェリーミートと粘液胞子虫による魚の異常	養殖ビジネス	50(8)	20-23
福田 稔	魚病NOW: マアナゴのエドワジエラ症	養殖ビジネス	51(2)	26
金澤 健	高水温に強いヒラメを探し出せ	アクアネット	17(2)	36-37

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H25.9.17	平成25年度日本魚病学会秋季大会	松山知正・坂井貴光・高野 倫一・中易千早・中村洋路・近藤秀裕・廣野育生・ <u>福田 稔</u>	Reverse vaccinologyによるブリの細菌性溶血性黄疸に対するワクチンの開発
H25.9.17	平成25年度日本魚病学会秋季大会	坂井貴光・松山知正・高野 倫一・加藤豪司・木本圭輔・吉岡左織・ <u>福田 稔</u> ・中易千早	病原体感染に対するヒラメ補体C7のマーカースとしての有用性
H25.9.17	平成25年度日本魚病学会秋季大会	高野 倫一・水野芳嗣・ <u>福田 稔</u> ・松山知正・坂井貴光・加藤豪司・中易千早	ヒラメのエドワジエラ症に対するホスホマイシンの治療効果
H25.9.18	平成25年度日本魚病学会秋季大会	窪山あずさ・和田新平・倉田 修・木本圭輔・ <u>福田 稔</u>	養殖トラフグにみられた黒色真菌症
H25.12.13	2013年度九州沖縄地区合同シンポジウム「九州周辺における海洋フロント」(佐賀大学)	田村勇司	豊後水道における瀬戸内海水の流出経路
H25.12.21	第3回大分県自然環境研究発表会(大分大学)	木本圭輔・景平真明・畔地 和久・福田祐一・内海訓弘	大野川水系神原川におけるアマゴの自然再生産

(3) 研究会、学会等での発表(つづき)

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H26.3.28	平成26年度日本水産学会春季大会	北辻さほ・紫加田知幸・鬼塚剛・坂本節子・山口峰生・宮村和良	佐伯湾における赤潮渦鞭毛藻Karenia mikimotoiの増殖動態と環境条件との関係 II:従属栄養性プランクトンの影響
H26.3.28	平成26年度日本水産学会春季大会	紫加田知幸・鬼塚剛・北辻さほ・阿部和雄・坂本節子・山口峰生・宮村和良	佐伯湾における赤潮渦鞭毛藻Karenia mikimotoiの増殖動態と環境条件との関係 I:物理化学的要因
H26.3.29	平成26年度日本水産学会春季大会	小西良子・石崎直人・森広一郎・米加田徹・福田 穰・木本圭輔・吉岡左織・難波豊彦・大西貴弘	ヒラメに寄生するグドア セプトンブクタタの新しいスクリーニング検査法と妥当性評価
H26.3.30	平成26年度日本魚病学会春季大会	福田 穰・吉岡左織・木本圭輔・山下亜純・浦崎慎太郎・和田善信・津江佑哉・追中大作・吉田照豊	養殖ブリ類における抗原変異Lactococcus garvieae感染症の発生
H26.3.30	平成26年度日本魚病学会春季大会	津江佑哉・追中大作・福田 穰・山下亜純・浦崎慎太郎・和田善信・吉田照豊	養殖ブリから分離された従来と異なる性状を示すLactococcus garvieae
H26.3.30	平成26年度日本魚病学会春季大会	南 隆之・金丸昌慎・岩田一夫・山下亜純・福田 穰・桑原正和・本川祥吾・天野健一・水田 篤・西木一生・津江佑哉・吉田照豊	カワハギ養殖におけるレンサ球菌症ワクチンの持続性および汎用性

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
農林水産研究指導センター研究紹介 ～おおいたの味方(みりょく)アップに向けた試験研究～	H25.12.10	コンパルホール	1	190
平成25年度大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会	H26.1.29～30	水産会館	14	73

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.4.3	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	2	日本政策金融公庫大分支店
H25.4.4	屋内無泥ドジョウ養殖の飼育技術	宇佐市	10	大分どじょう屋内養殖協議会
H25.4.24	瀬戸内海大分県海域におけるマコガレイ体色異常魚の混入状況	日出町	25	漁業公社
H25.4.26	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	2	とよおか港市場
H25.4.26	ウニの棘抜け症について	臼杵市	17	大分県漁業士会潜水部会
H25.4.30	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	2	東京ヤサカ自動車
H25.5.3	大分市神崎地先はクルマエビの放流適地か?	別府市	33	大分県漁業士会底曳き網漁業部会
H25.6.5	地域特性を考慮したキジハタとオニオコゼの放流手法の高度化～放流後の調査報告および今年度の調査計画～	姫島村	14	(独)水産総合研究センター瀬戸内海海区水産研究所等
H25.6.5	豊後水道北部地区漁協支店・市と水産研究部等による連絡会議	津久見市	17	県漁協津久見支店
H25.6.7	豊後水道南部地区漁協支店・市と水産研究部等による連絡会議	佐伯市	20	南部振興局
H25.6.7	佐伯湾における赤潮の発生状況等について	佐伯市	15	県漁協青年部佐伯支部
H25.6.17	ギョツとする県産魚の話	佐伯市	55	南部保健所
H25.6.20	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	5	ひとまるどじょう生産協同組合
H25.6.22	抱卵ガザミの蓄養とヤワラクルマエビの硬化について	杵築市	8	県漁協青年部杵築支部
H25.6.25	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	6	韓国全羅北道南原市農業技術センター

(1) 講習会、研修会等の開催(つづき)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H25.6.27	囲い刺網によるクルマエビの馴致放流手法について	杵築市	10	県漁協青年部杵築支部
H25.7.5	水産用医薬品と魚病について	佐伯市	39	大分県水産養殖協議会
H25.7.9	屋内無泥ドジョウ養殖の飼育技術	宇佐市	11	大分どじょう屋内養殖協議会
H25.7.12	無垢島のクロメの調査結果	津久見市	20	北郡運営委員長会
H25.8.6	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	1	ライト建築設計有限公司
H25.8.22	かぼすプリ試験結果報告	佐伯市	22	かぼすプリ・かぼすヒラメ販売促進協議会
H25.8.27	キジハタ・オニオコゼの中間育成と標識作業について	国東市	8	漁業公社
H25.8.27	養殖ヒラメのクドア対策	佐伯市	35	大分県水産養殖協議会
H25.9.9	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	1	瀬戸大橋温泉やま幸
H25.9.21	キラリと跳ねる県産魚の話	大分市	100	大分県栄養士会
H25.10.21	屋内無泥ドジョウ養殖の飼育技術	宇佐市	12	大分どじょう屋内養殖協議会
H25.10.22	ドジョウ養殖とスッポン養殖	宇佐市	3	NPO法人 もあ・かけはし
H25.10.23	養殖ヒラメに寄生した <i>Kudoa septempunctata</i> による食中毒の防止対策	熊本市	28	九州農政局
H25.10.24	大分県の海産魚類養殖における水産用医薬品使用の現状	東京都	190	農林水産省消費・安全局
H25.10.26	赤潮発生予察で被害を経験 ～西部瀬戸内海で発生する有害赤潮プランクトン「カレニア・ミキモトイ」の監視と予察	広島市	85	瀬戸内海水産フォーラム
H25.10.30	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	2	農家村塾
H25.11.5	ドジョウ養殖とスッポン養殖	宇佐市	12	木花漁業協同組合
H25.11.6	大分県内の長い魚	大分市	40	大分県栄養士会 阿南幼稚園
H25.11.27	屋内無泥ドジョウ養殖	宇佐市	2	大塔農産
H25.11.30	スッポン養殖	宇佐市	2	有限会社 後藤企画
H25.12.7	養殖プリとその利用方法	佐伯市	30	Heart Warm (魚食普及団体)
H25.12.13	レトルトの加工法について	佐伯市	18	佐伯市学校教育研究会
H25.12.25	大分市中津地先におけるナルトビエイの二枚貝(バカガイ)捕食状況	宇佐市	20	千葉県水産総合研究センター
H26.1.7	スッポン養殖	宇佐市	3	朝倉すっぽん養殖場
H26.2.4	温泉熱を利用したスッポン養殖	宇佐市	19	八丈島地熱発電利用拡大検討協議会
H26.2.5	大分県内でとれるお魚をもっと知ろう	大分市	100	大分県栄養士会 金池幼稚園
H26.2.7	キジハタ・オニオコゼの種苗放流による資源造成の取組 ～水産復興(姫島)モデルの開発～	別府市	37	東国東漁業青年協議会
H26.2.8	豊前海における海底ゴミと生物の分布状況 豊前海の漁獲状況	宇佐市	37	豊前海漁業青年協議会
H26.2.8	大分県内でとれる魚の卵	大分市	30	大分県栄養士会
H26.2.12	かぼすによる養殖魚への効果について	臼杵市	100	大分県かぼす振興協議会
H26.2.15	豊前海の漁獲状況	宇佐市	15	周防灘小型底曳網漁業者検討会
H26.2.15	大分市中津地先におけるナルトビエイの二枚貝(バカガイ)捕食状況	宇佐市	15	豊前海アサリ漁業者検討会
H26.2.19	豊前海の漁業と浅海・内水面グループの取り組み	豊後高田市	109	豊後高田市立高田中学校
H26.2.20	キジハタ・オニオコゼの種苗放流による資源造成の検証	姫島村	28	(独)水産総合研究センター瀬戸内海海区水産研究所等
H26.2.20	ドジョウの採卵準備	宇佐市	4	ひとまろどじょう生産協同組合
H26.2.21	ドジョウの採卵	宇佐市	4	ひとまろどじょう生産協同組合
H26.3.4	海産魚類養殖における水産用医薬品使用の現状	佐伯市	12	大分県豊後大野家畜保健衛生所
H26.3.7	25年度沖石原における集積装置によるアサリ稚貝の動向について	中津市	40	中津干潟を元気にする会
H26.3.7	アサリ吸引装置を用いた移植の試み	中津市	40	中津干潟を元気にする会
H26.3.7	大分県中津市小祝地先におけるナルトビエイの駆除状況	中津市	40	中津干潟を元気にする会
H26.3.14	養殖プリ類のα溶血性レンサ球菌症(Lactococcus garvieae感染症)における非凝集株の出現	佐伯市	39	大分県水産養殖協議会青年部会

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	49	181
団体等職員	1	2
普及指導員	0	0
学生	8	94
海外研修者	3	44
その他	13	51
計	74	372

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
養殖ドジョウの更なる増産と販路拡大	日本一の品質・生産量を誇るドジョウ養殖の地位を確固たるものにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・25年度の目標養殖生産量は22tであったが、15.9tで目標は達成できなかった。 ・既に生産が軌道に乗っていた1業者で改修工事が行われ、対小動物ディフェンスが破綻し疾病が頻発したことにより生産が伸びなかった。 ・また期待された後発2業者の生産量が伸びておらず、計画的生産ができるよう、徹底した技術指導が必要である。
「かぼすブリ」のブランド化と増産	「かぼすブリ」のブランド化と生産量の更なる拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・25年度の目標養殖生産量は300tで、1月末見込みで298tに達し、ほぼ当初の目標どおりの生産量をあげることができた。 ・テレビの人気番組で「かぼすブリ」が取り上げられたことで認知度・評価とも飛躍的に伸びた。 ・今後は試験研究機関がバックデータ(美味しさの科学的証拠)を持って指導する体制作りが必要である。

農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先

組織名	郵便番号	所在地	電話番号	FAX 番号
農林水産研究指導センター（本部）	879-7111	豊後大野市三重町赤峰2328-8	0974-28-2074	0974-28-2052
農業研究部	879-7111	豊後大野市三重町赤峰2328-8	0974-22-0670	0974-22-0675
水田農業グループ	872-0103	宇佐市大字北宇佐65	0978-37-1141	0978-37-0036
果樹グループ	873-0511	国東市国東町小原4402	0978-72-0407	0978-72-3402
カボス・中晩柑チーム	879-2413	津久見市大字津久見浦3456	0972-82-2837	0972-82-5322
ナシ・ブドウチーム	872-0103	宇佐市大字北宇佐65	0978-37-0149	0978-37-1437
花きグループ	874-0844	別府市大字鶴見710-1	0977-66-4706	0977-67-5218
畜産研究部	878-0201	竹田市久住町大字久住3989-1	0974-76-1216	0974-76-1227
豚・鶏チーム	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺2328-8	0974-22-0673	0974-22-0980
林業研究部	877-1363	日田市大字有田字佐寺原35	0973-23-2146	0973-23-6769
きのこグループ	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺2369	0974-22-4236	0974-22-6850
水産研究部	879-2602	佐伯市上浦大字津井浦194-6	0972-32-2155	0972-32-2156
浅海・内水面グループ	879-0608	豊後高田市呉崎3386	0978-22-2405	0978-24-3061
内水面チーム	872-0504	宇佐市安心院町荘42	0978-44-0329	0978-34-4050

平成25年度
大分県農林水産研究指導センター業務年報

平成26年8月発行

編集
発行

大分県農林水産研究指導センター

〒879-7111

豊後大野市三重町赤嶺2328-8

TEL 0974-28-2074

FAX 0974-28-2052